

第3章 アンケート調査2 インターネット調査

I 調査結果まとめ

本調査は、ファミリー・サポート・センター事業の会員になっていない層も含めた「本事業の認知度調査」を全国規模（6,000人を対象）で実施した。調査項目及び結果の詳細は下表の通り。

インターネット調査	調査項目
(1) 依頼会員となり得る子育て世帯層（子育て家庭の保護者） (N=2,391)	・ファミサポを知っているか
	・知っている場合、知ったきっかけ、認知経路
	・会員になっているか
	・会員になっていない場合の理由
	・子どもを預かってほしい場合、何を重視するか
	・子どもを預かってほしい場合、実際はどのようにしているか
	・ファミサポ事業へのイメージ
(2) 提供会員となり得る年代層（提供会員世代10代～70代） (N=3,609)	・ファミサポを知っているか
	・知っている場合、知ったきっかけ、認知経路
	・会員になっているか
	・会員になっていない場合の理由
	・子育て支援の活動等の経験の有無
	・子育ての地域の助け合いについて必要性を感じているか
	・ファミサポ事業へのイメージ

1 「ファミリー・サポート・センター事業の認知度と認知経路」について

本事業は、子ども子育て支援新制度における地域子ども・子育て支援事業の一つであり、子育て家庭を対象とした利用者の限られた制度であるため、事業の認知度は調査対象者全体では4割を下回る結果となった。また、調査対象者別では、「依頼会員となり得る子育て世帯層（子育て家庭の保護者）」の認知度は46.9%と5割を下回っており、「提供会員となり得る年代層（提供会員世代10代～70代）」では26.7%とさらに低い結果となった。さらに、本事業認知者の会員登録経験も前者では49.5%、後者では28.7%といずれも5割を下回る結果となっている。なお、両者ともに世帯収入が高いほど認知度が高くなる傾向も見られた。

本調査はファミリー・サポート・センター事業を実施していない市町村に居住している回答者も含まれる可能性があることを踏まえたとしても、この結果から、近年全国で増加の一途を辿る依頼会員数については、未だ潜在的ニーズが多くあることを示しており、提供会員の確保に向けての取り組みもさらなる周知・広報が必要であることが分かる。

次に本事業を認知した経路では、両調査対象ともに「市町村の広報」が7割を超え、最も有効な広報方法であることが分かった。一方で、調査対象別では次点となった「子育て関連施設・子育てイベント

等：39.8%（依頼会員となり得る子育て世帯層）」及び「公共施設や公的な行事での広報：28.5%（提供会員となり得る年代層）」がともに4割を下回る結果となっており、上記で挙げた現状の認知度及び会員登録経験の調査結果を考えると「市町村の広報」以外の周知・広報の方法も併せて模索していく必要があると言える。

2 「会員登録をした理由/しない理由」について

本調査では、ファミリー・サポート・センター事業の認知経路と併せて本事業の認知者が「会員登録をした理由」及び「会員登録をしない理由」についても調査を行った。まず、「会員登録をした理由」については、「依頼会員となり得る子育て世帯層」では、「利用料金が安いから」、「行政の案内で信頼できるから」、「同じ地域の住民が預かってくれるから」の3点が上位を占める結果となった。この結果から、ベビーシッターや子育てタクシー等の民間の子育て支援に比べると本事業の利用料金は比較的安価であると認識されていることや「市町村の広報」に掲載されていること、同じ地域住民による預かりであることが安心感につながっていることが分かる。

また、「提供会員となり得る年代層」では、「困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから」（82.0%）が8割を超えて最も高い結果となり、次いで、「時間に余裕ができたから」（43.4%）、「楽しそう、子どもが好きだから」（41.6%）が4割を超える結果となっており、活動により得られる金銭的な対価以外の理由が登録の主な動機であることが分かった。

一方で、「会員登録をしない理由」には、前者では、「依頼する必要がなかったから」を除くと、「利用料金が高いから」（20.8%）、「使いにくそうだから」（20.2%）、「他人に預けることに抵抗があるから」（19.7%）が挙げられた。これは、利用料金については、登録理由の一つに安価であることが挙げられている一方で高額に感じる子育て家庭の保護者がいることを示した結果であると言える。「使いにくそうだから」は、本事業を利用する際の方法・手順や利用の際に結ばれる契約内容（請負または準委任契約であること）等の制度設計の複雑さに起因するものと考えられる。なお、「他人に預けることに抵抗があるから」は、末子年齢が妊娠中～3歳までの子育て家庭の保護者にその傾向が強くなっている。また、後者では、提供会員として登録しない理由として、「時間がないから」（32.1%）、「何か問題があったときの責任が重すぎるから」（27.2%）が上位に挙げられ、すべての年代（10代～70代）で概ね同様の結果となった。本人の多忙さと提供会員としての責任の重さがネックとなっていると考えられる。

3 「子どもの預け先と預ける際に重視する点」について

「依頼会員となり得る子育て世帯層」の普段の生活の中で、実際の子どもの預け先は「祖父母」（73.2%）や「友人知人」（17.4%）、「祖父母以外の親族」（16.7%）などのインフォーマルな社会資源が多く、フォーマルな社会資源である「公的支援サービス」（16.3%）が少ない結果となった。また、子どもを預かってもらう際の重視する点として、「預かってくれる人が信頼できる」（48.3%）が最も多く、「利用料金が安いこと」（18.9%）、「（預かってほしい時に）いつでもすぐに預けられる」（9.8%）の順となった。この結果と先述した会員登録した理由で挙げられた「利用料金が安いから」及び「行政の案内で信頼できるから」を踏まえると、ファミリー・サポート・センター事業は、「依頼会員となり得る子育て世帯層」のニーズに適合しており、祖父母や祖父母以外の親族、友人知人等のインフォーマルな社会資源の次に

選択肢に入り得ることが想定される。

4 「子育て支援活動の経験と子育ての地域の助け合いについての必要性」について

「提供会員となり得る年代層」のこれまでの子育て支援活動の経験については、「現在も活動中」(2.1%)と「現在活動していない」(3.9%)を合わせた経験率は6.0%であり、非常に少ない結果となった。また、「子育て支援活動の経験もなく、関心もない」(69.1%)が、「活動経験はないが関心あり」(25.0%)を2倍以上の数値で多くなっており、地域住民の無関心はファミリー・サポート・センター事業だけでなく、地域の子育て支援全般に関わる課題であると言える。一方で、地域住民同士の子育て支援活動の必要性では、「必要」(19.8%)と「ある程度必要」(58.3%)を合わせ、78.1%が「必要」だと考えていることから、地域の子育て支援に関する興味関心をいかに想起することが出来るかが、今後の鍵となると考えられる。地域住民の無関心を関心へと移行するきっかけづくり、また関心から理解・共感につなげる取り組みが今後求められている。

5 「ファミリー・サポート・センター事業へのイメージ」について

ファミリー・サポート・センター事業に対する印象について、「依頼会員となり得る子育て世帯層」では、「信頼できる」(22.8%)や「料金が安い」(20.2%)、「専門性が高い」(13.9%)といったポジティブな印象が上位に挙げられているが、一方で、「利用しにくい」(32.3%)という運用面でのネガティブな印象もポジティブな印象を上回る結果となった。こちらのネガティブな印象は、先述した会員登録しない理由でも挙げられており、実際の支援に入る前のハードルとなっていると言える。

「提供会員となり得る年代層」の同事業に対する印象では、前者と同様に「信頼できる」(25.5%)、「専門性が高い」(19.8%)とある程度の評価されているものの、「手続きがわかりにくい」(33.3%)ことや「報酬が安い」(18.9%)点などネガティブな印象も強い。また、前者と比べても、信頼性や専門性の印象はやや高いものの、「利用しにくさ」(提供会員となり得る年代層にとっての「手続きのわかりにくさ」)が同様に高くなっている。

上記の結果から、「依頼会員となり得る子育て世帯層」及び「提供会員となり得る年代層」のいずれからも支援前の「手続きのわかりにくさ」、「利用しにくさ」がネガティブな印象として捉えられており、本事業の制度設計を含めた各種手続き（会員登録、講習の在り方、利用の流れ等）の再度検討余地があると言える。

【調査回答者属性－全回答者（N=6,000人）】

・男女比、年代別回答者一覧

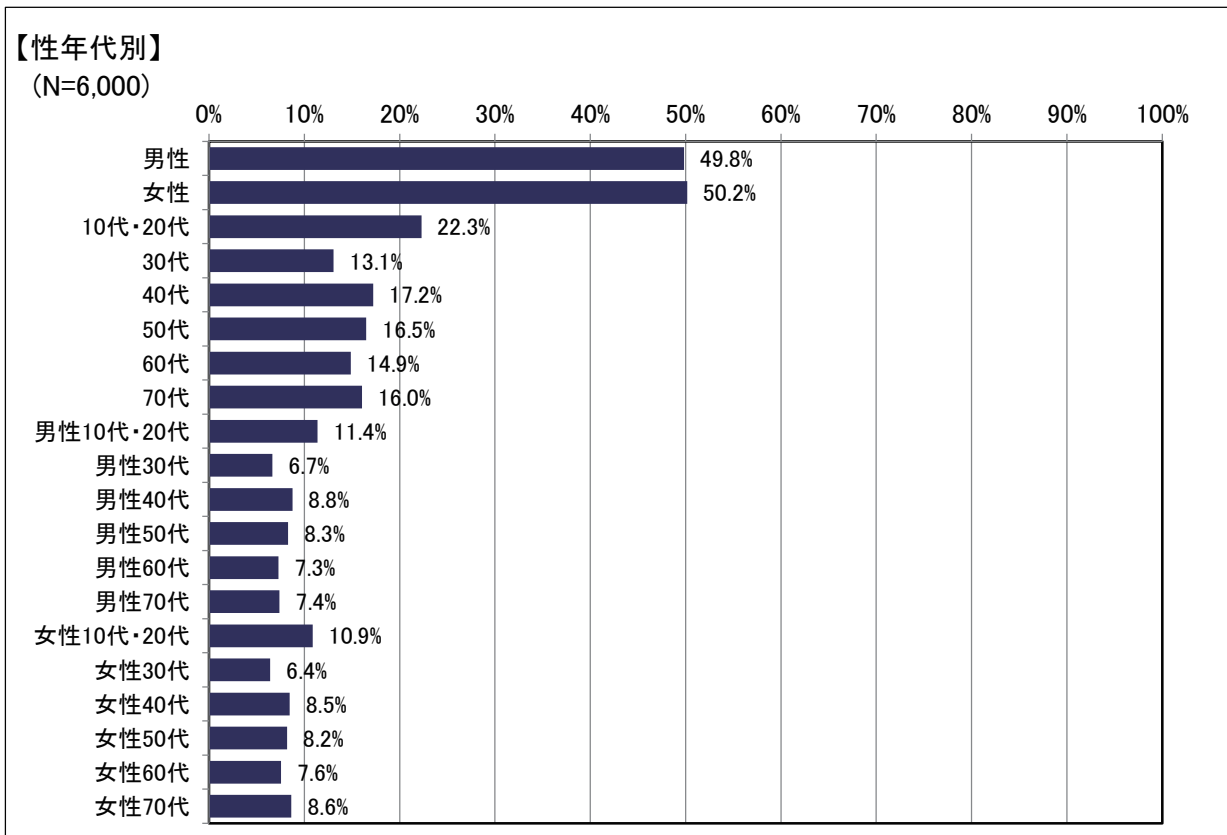


図 3-I-1-1. 男女比、年代別回答者一覧

・エリア別回答者一覧

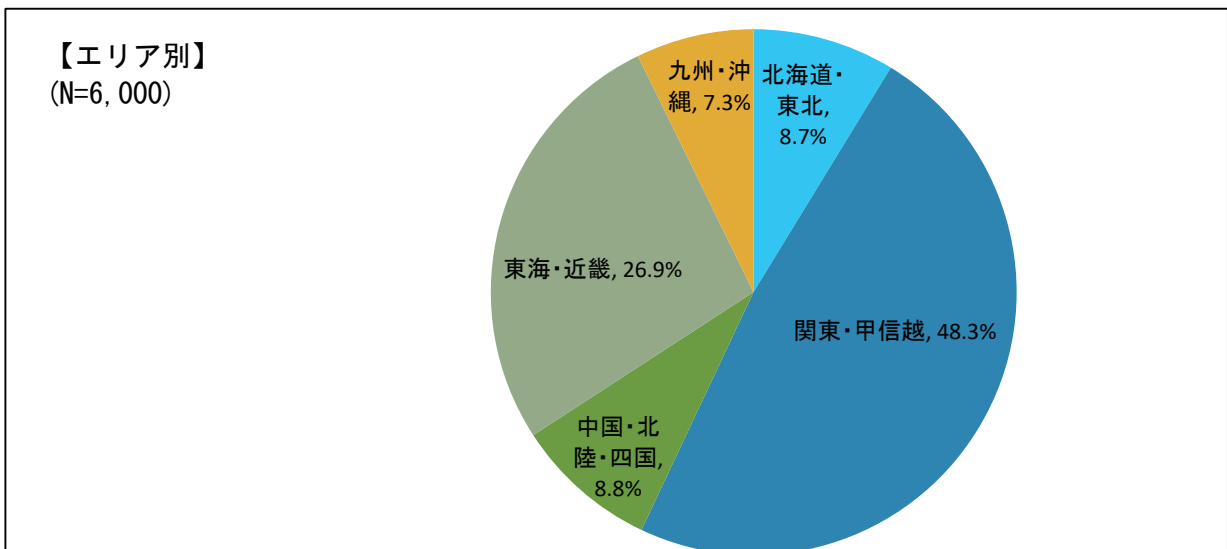


図 3-I-1-2. エリア別回答者一覧

・ 婚姻（配偶者の有無）

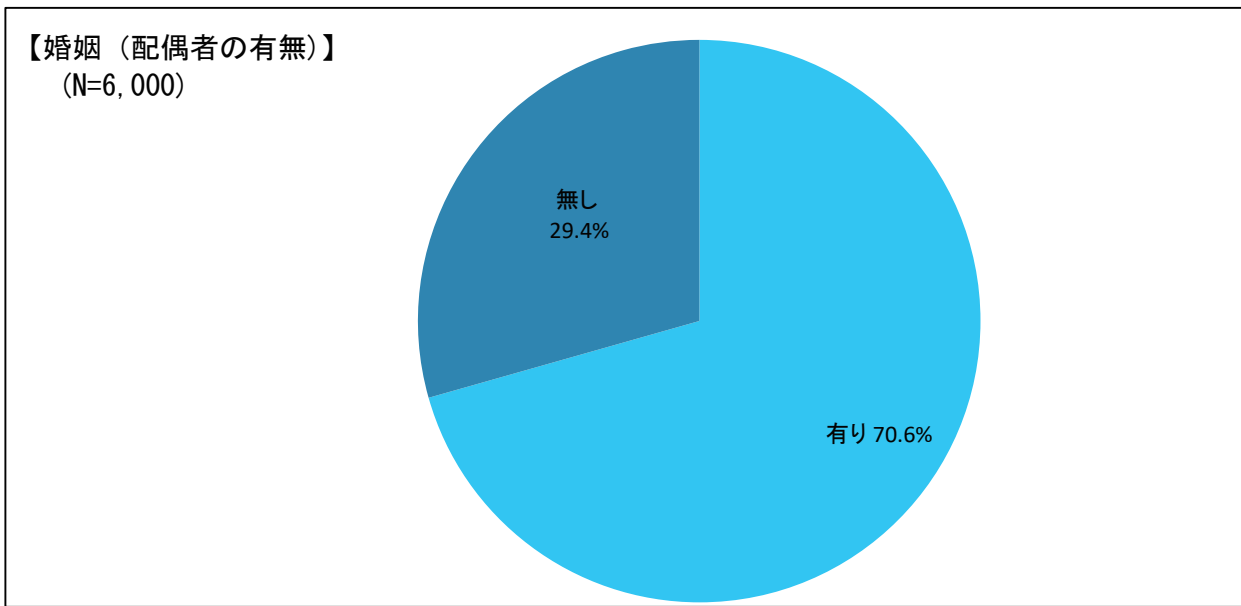


図 3-I-1-3. 婚姻（配偶者の有無）

・ 子育て経験

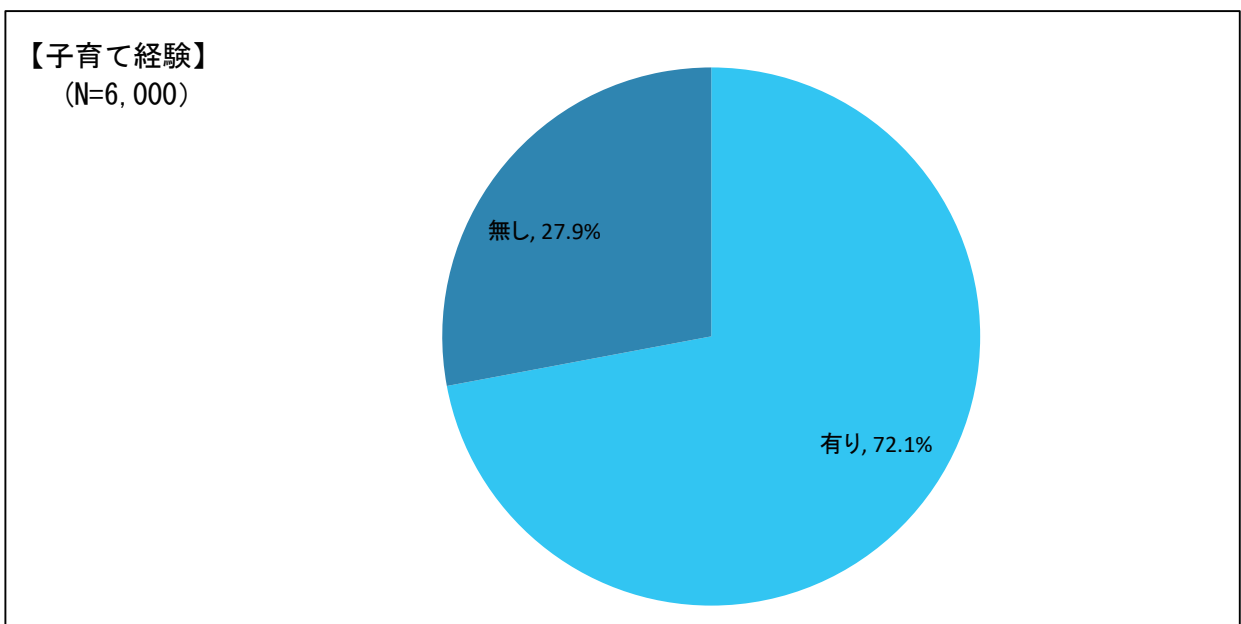


図 3-I-1-4. 子育て経験

・末子年齢

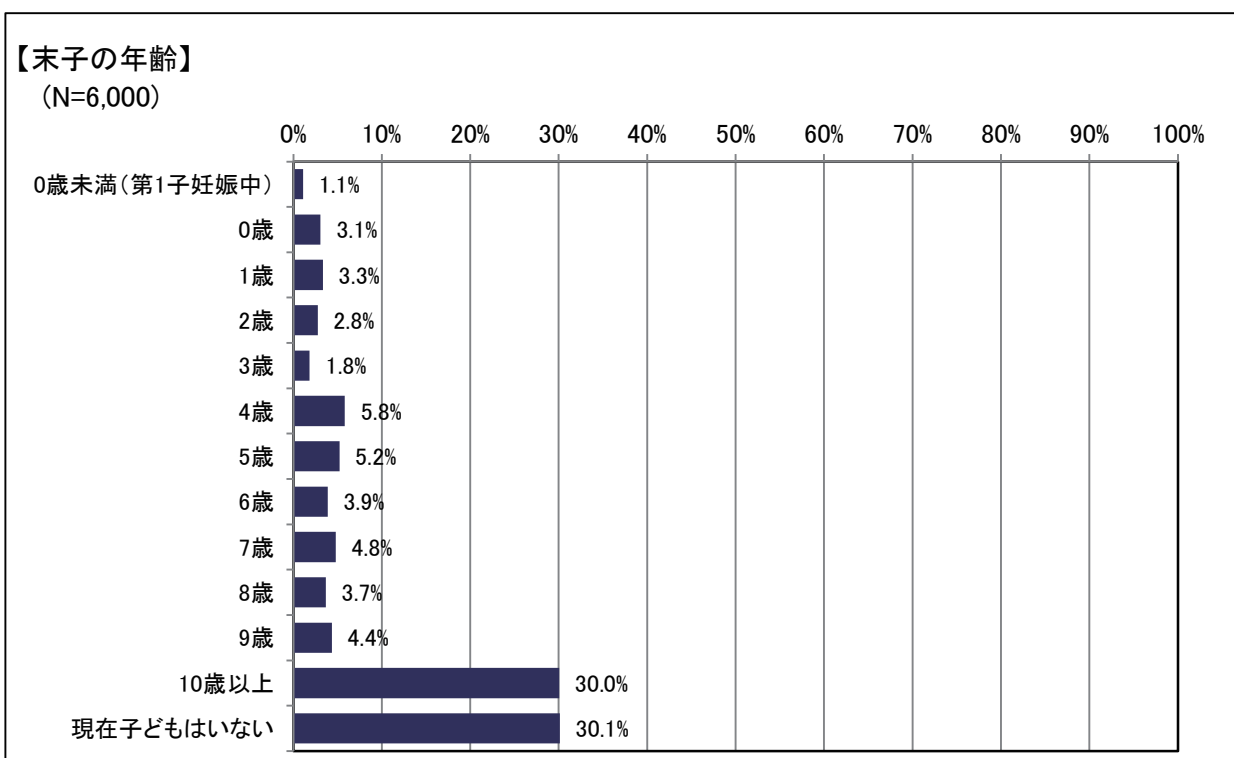


図 3-I-1-5. 末子の年齢

・子どもの人数

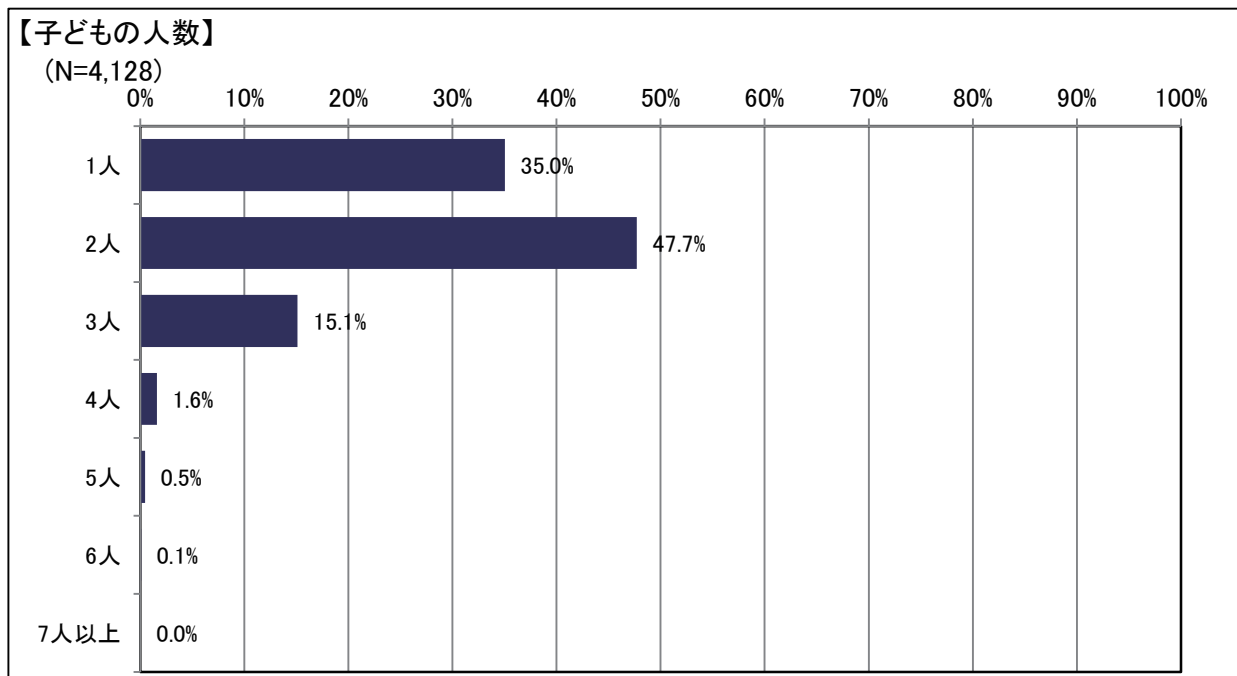


図 3-I-1-6. 子どもの人数

・ 職業

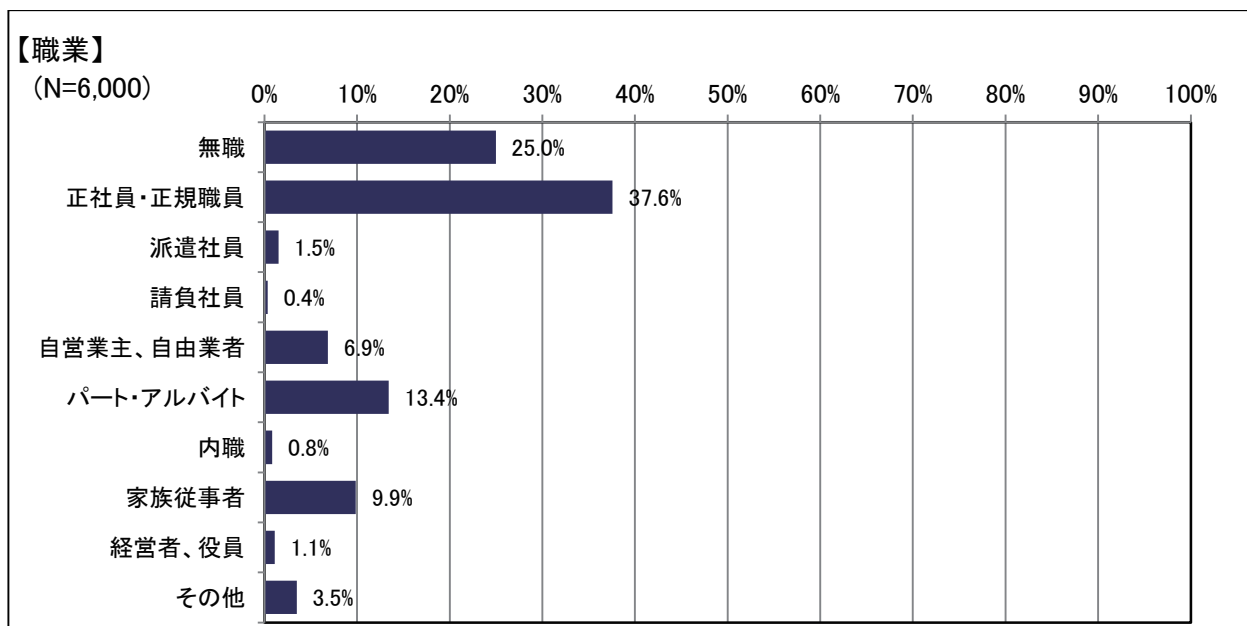


図 3-I-1-7. 職業

・ 世帯年収

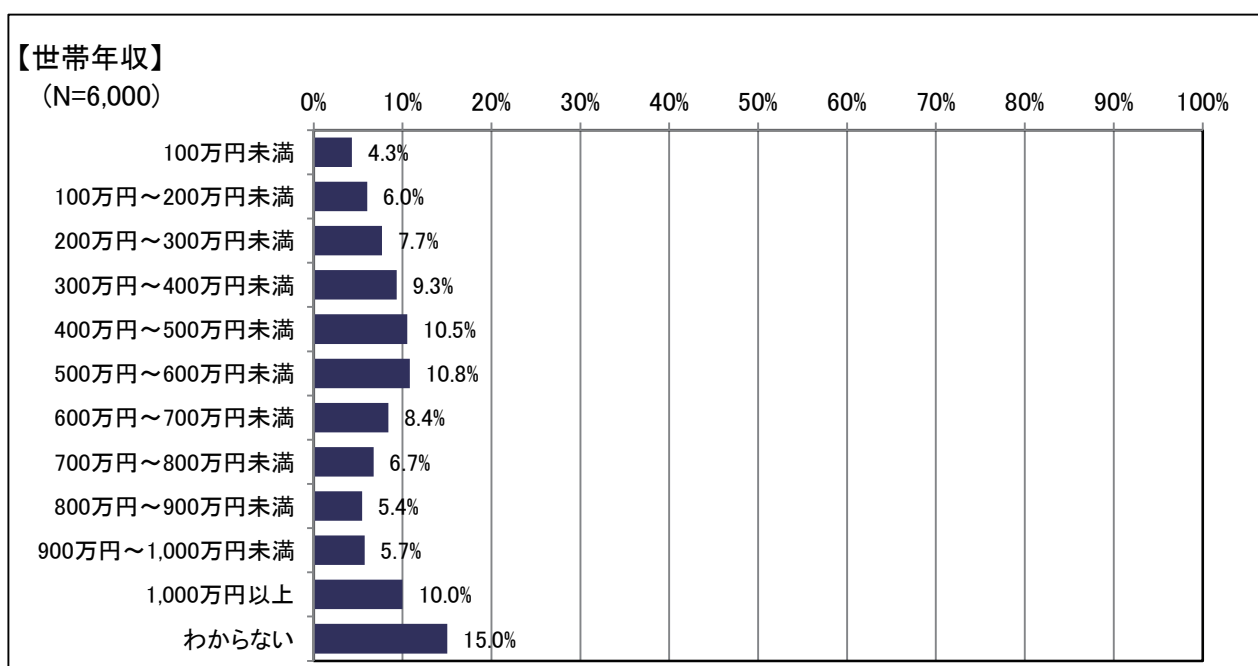
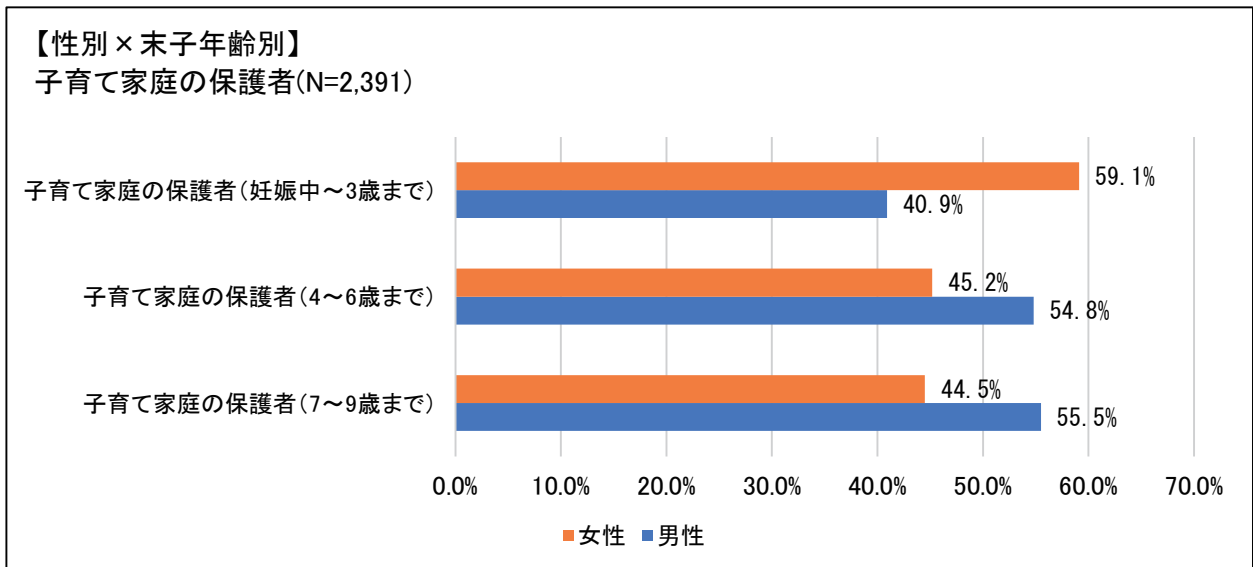


図 3-I-1-8. 世帯年収

【回答者属性－依頼会員となり得る子育て世帯層（子育て家庭の保護者）（N=2,391人）】

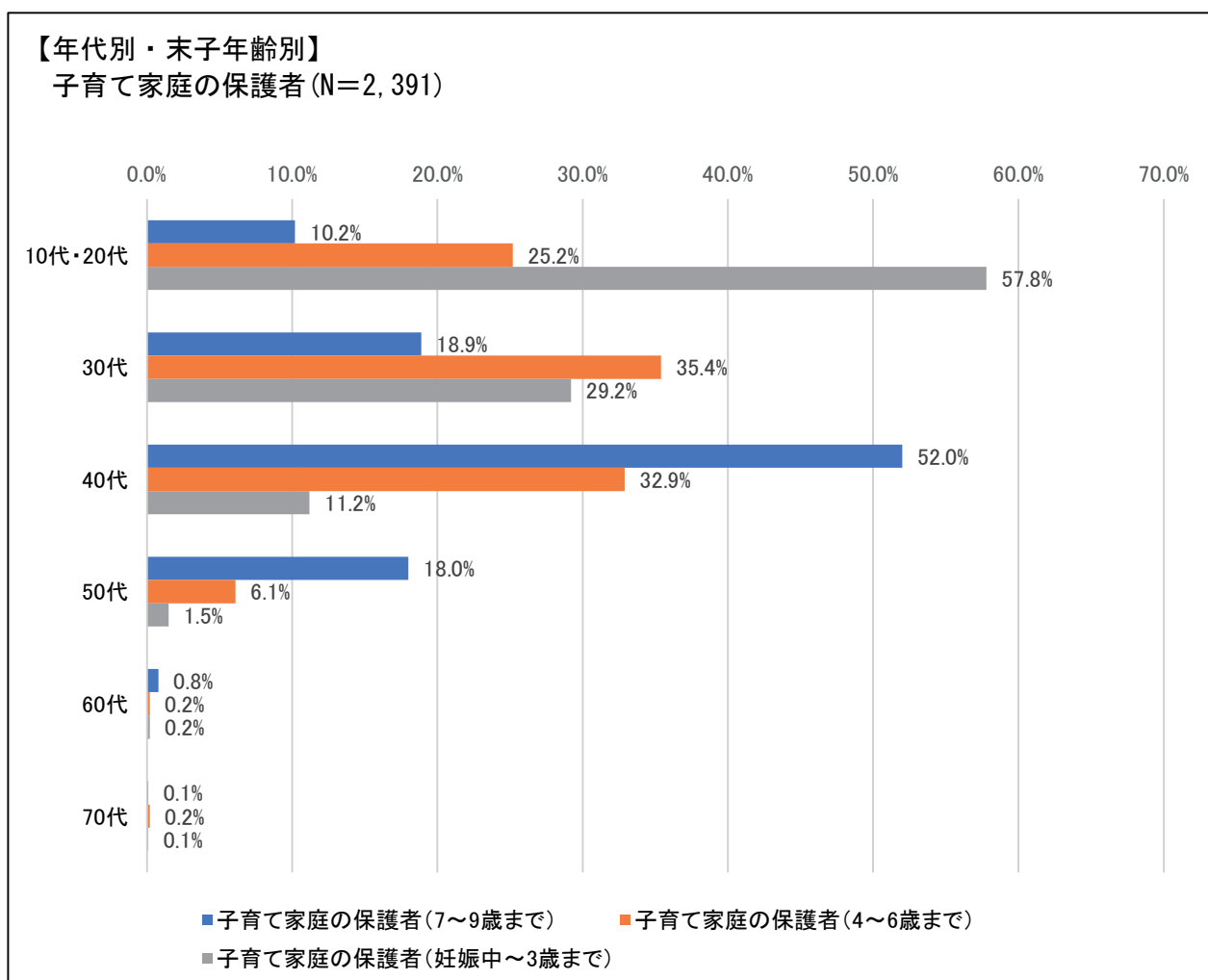
・性別×末子年齢



【性別-末子年齢のクロス表】	全体	男性	女性
全体	2,391	1,215	1,175
	100.0%	50.8%	49.2%
子育て家庭の保護者(妊娠中～3歳まで)	725	297	428
	100.0%	40.9%	59.1%
子育て家庭の保護者(4～6歳まで)	896	492	405
	100.0%	54.8%	45.2%
子育て家庭の保護者(7～9歳まで)	769	427	342
	100.0%	55.5%	44.5%

図表 3-I-2-1. 性別×末子年齢

・年代別×末子年齢



【年代別 - 末子年齢のクロス表】	全体	10代・20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体	2,391	723	675	777	203	10	4
	100.0%	30.2%	28.2%	32.5%	8.5%	0.4%	0.2%
子育て家庭の保護者(妊娠中~3歳まで)	725	419	212	81	11	1	1
	100.0%	57.8%	29.2%	11.2%	1.5%	0.2%	0.1%
子育て家庭の保護者(4~6歳まで)	896	225	317	295	55	2	2
	100.0%	25.2%	35.4%	32.9%	6.1%	0.2%	0.2%
子育て家庭の保護者(7~9歳まで)	769	78	146	400	138	6	1
	100.0%	10.2%	18.9%	52.0%	18.0%	0.8%	0.1%

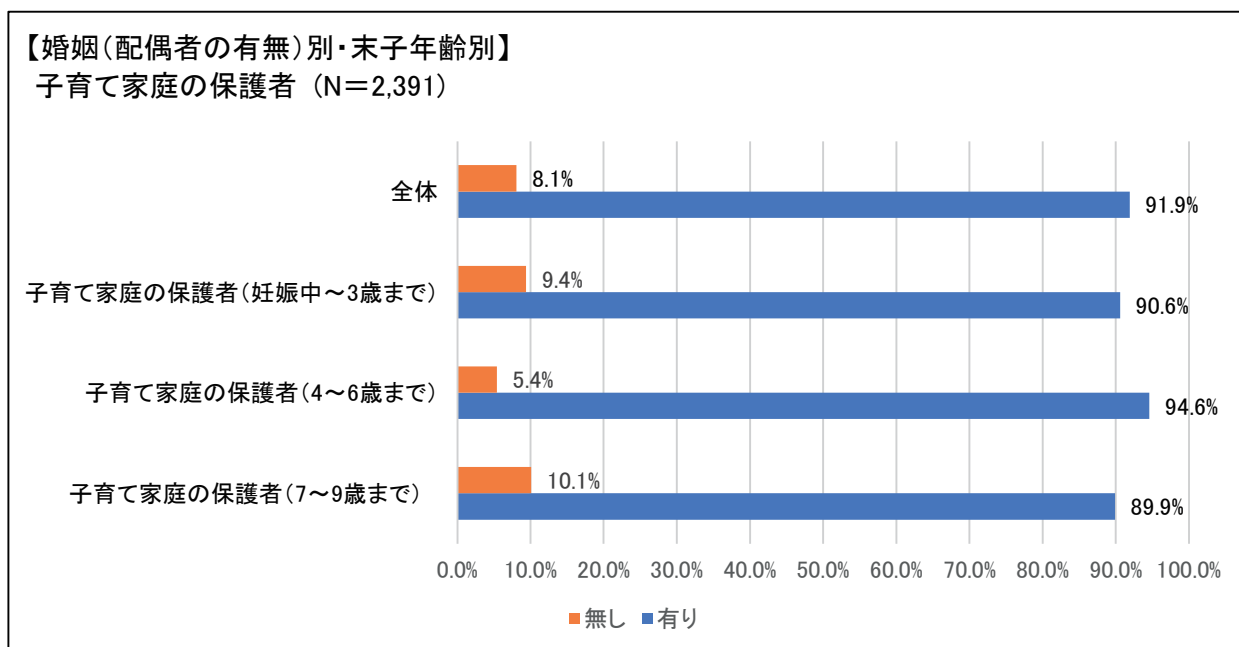
図表 3-I-2-2. 年代別×末子年齢

・居住エリア別×末子年齢

居住エリア-末子年齢 の	全体	北海道 ・東北	関東 ・甲信越	中国・北陸 ・四国	東海 ・近畿	九州 ・沖縄
全体	2,391	218	1,109	220	659	185
	100.0%	9.1%	46.4%	9.2%	27.5%	7.7%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	725	52	307	68	239	59
	100.0%	7.1%	42.3%	9.4%	33.0%	8.2%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	896	103	421	80	219	73
	100.0%	11.5%	46.9%	8.9%	24.5%	8.1%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	769	63	382	72	200	53
	100.0%	8.2%	49.7%	9.3%	26.0%	6.8%

表 3-I-2-3. 居住エリア別×末子年齢

・婚姻（配偶者の有無）別×末子年齢



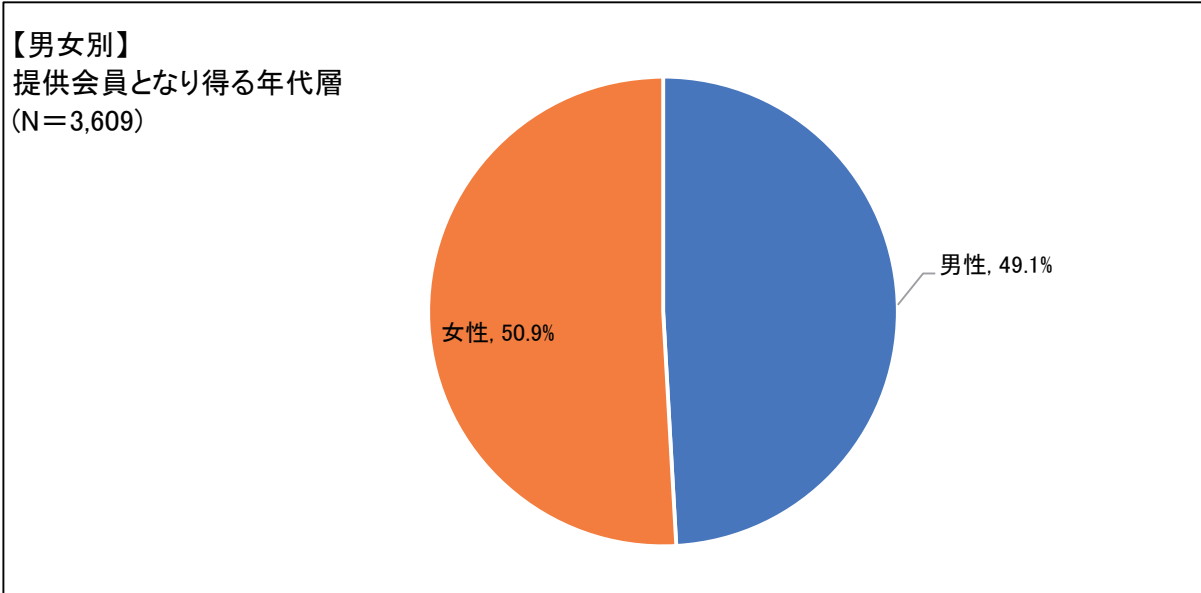
【婚姻（配偶者の有無） - 末子年齢のクロス表】

	全体	有り	無し
全体	2,391	2,197	194
	100.0%	91.9%	8.1%
子育て家庭の保護者（妊娠中～3歳まで）	725	657	68
	100.0%	90.6%	9.4%
子育て家庭の保護者（4～6歳まで）	896	848	48
	100.0%	94.6%	5.4%
子育て家庭の保護者（7～9歳まで）	769	692	78
	100.0%	89.9%	10.1%

図表 3-I-2-4. 婚姻（配偶者の有無）別×末子年齢

【回答者属性－提供会員となり得る年代層(提供会員世代 10代～70代)
(N=3,609人)】

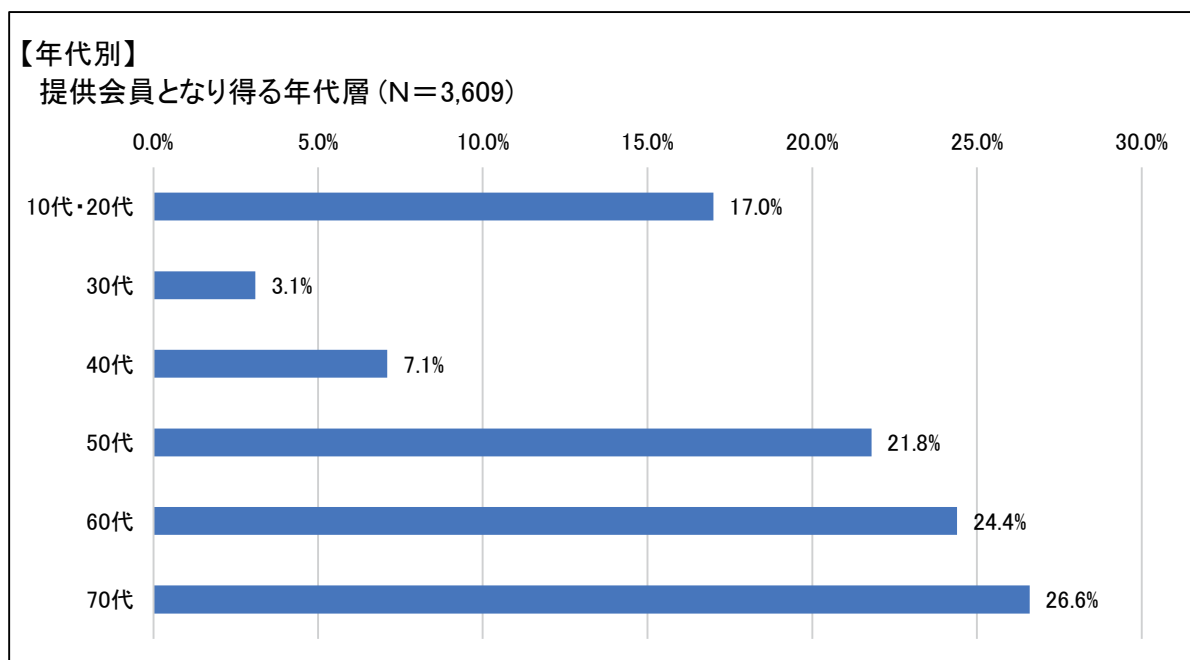
・性別



【男女別】	全体	男性	女性
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代 10代～70代)	3,609	1,774	1,835
	100.0%	49.1%	50.9%

図表 3-I-3-1. 性別

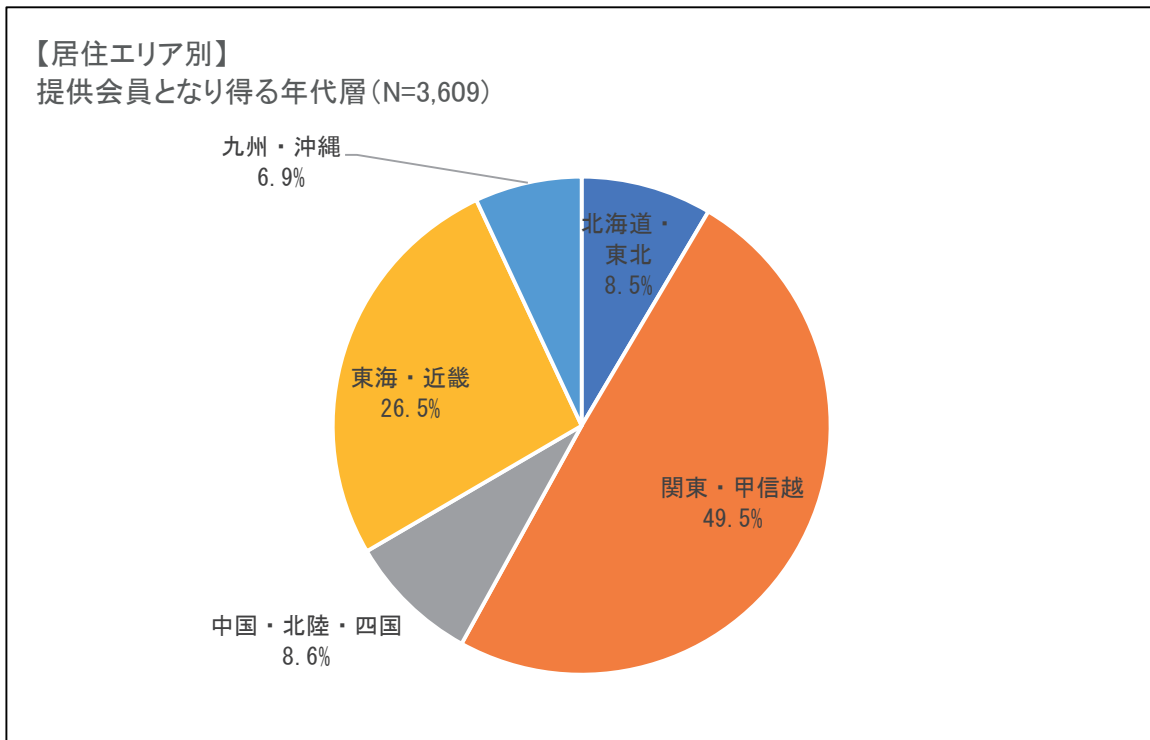
・年代別



【年代別】	全体	10代・ 20代	30代	40代	50代	60代	70代
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代10代～70代)	3,609	614	110	257	787	882	959
	100.0%	17.0%	3.1%	7.1%	21.8%	24.4%	26.6%

図表 3-I-3-2. 年代別

・居住エリア別



【エリア別】	全体	北海道・ 東北	関東・甲 信越	中国・北 陸・四国	東海・ 近畿	九州・ 沖縄
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代10代～70代)	3,609	306	1,788	309	956	251
	100.0%	8.5%	49.5%	8.6%	26.5%	6.9%

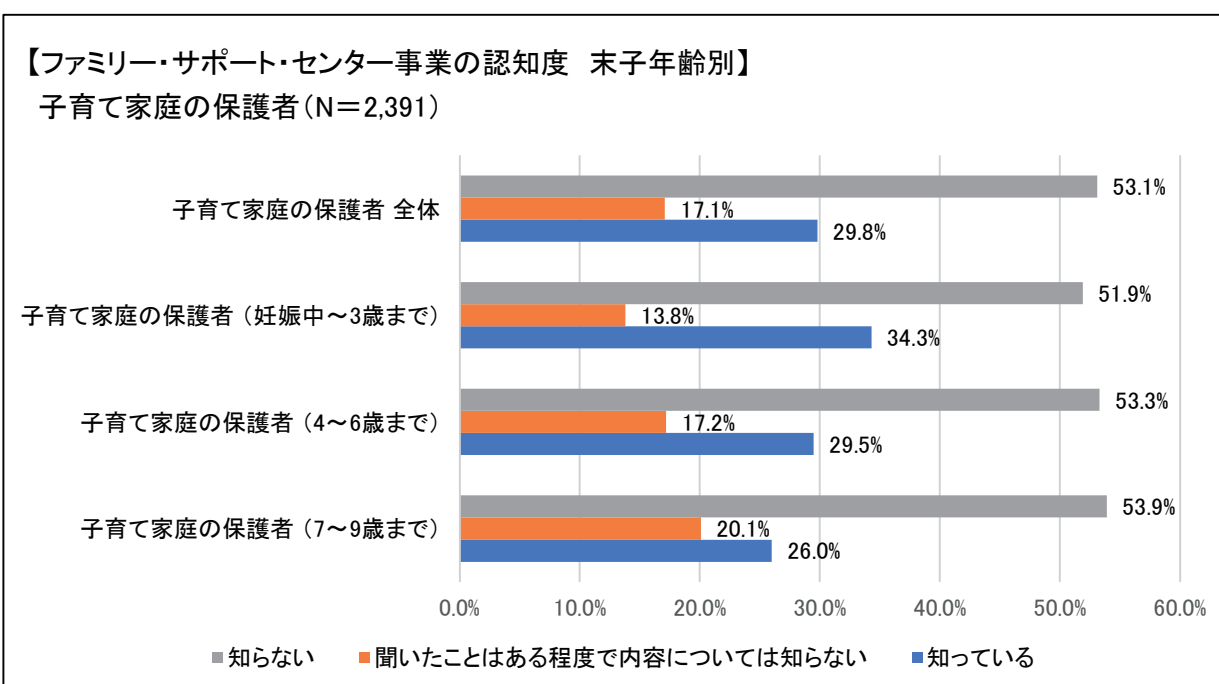
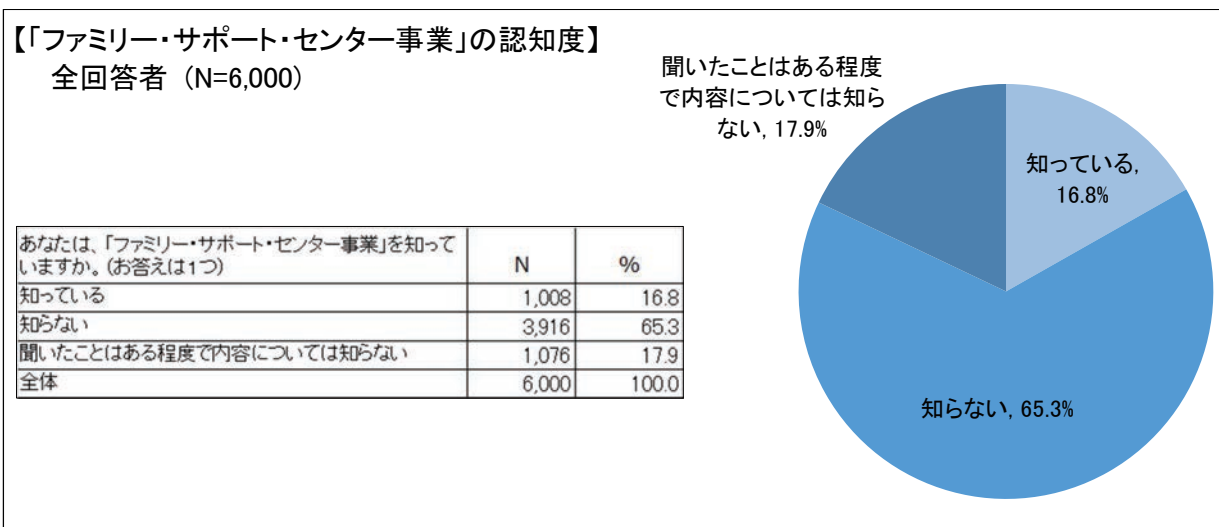
図表 3-I-3-3. 居住エリア別

Ⅱ 依頼会員となり得る子育て世帯層への調査結果

1. ファミリー・サポート・センター事業の認知度

ファミリー・サポート・センター事業の認知度は、「依頼会員になり得る子育て世帯層(子育て家庭の保護者)」(N=2,931)と「提供会員になり得る年代層(提供会員世代10代～70代)」(N=3,609)を合わせたすべての回答者(N=6,000)では、「知っている」(16.8%)と「聞いたことはある程度で内容については知らない」(17.9%)を合わせた認知度は34.7%であった。

また、「依頼会員になり得る子育て世帯層」の回答では、全体ベースで46.9%(認知度計)であり、各層(末子年齢により3階層に分別)で5割弱の認知度であった。その中でも「妊娠中～3歳まで」層で「(内容まで)知っている」率が34.3%と最も高くなっており、同事業への関心の高さが伺える。なお、世帯収入が高いほど認知度が高くなる傾向も見られた。



	全体	知っている	聞いたことはある程度で内容については知らない	認知度	知らない
子育て家庭の保護者全体	2,391	713	409	1,122	1,269
	100.0%	29.8%	17.1%	46.9%	53.1%
子育て家庭の保護者(妊娠中～3歳まで)	725	249	100	349	377
	100.0%	34.3%	13.8%	48.1%	51.9%
子育て家庭の保護者(4～6歳まで)	896	265	154	419	478
	100.0%	29.5%	17.2%	46.7%	53.3%
子育て家庭の保護者(7～9歳まで)	769	200	155	355	414
	100.0%	26.0%	20.1%	46.1%	53.9%

図表 3-II-1-1. ファミリー・サポート・センター事業の認知度(依頼会員・末子年齢別)

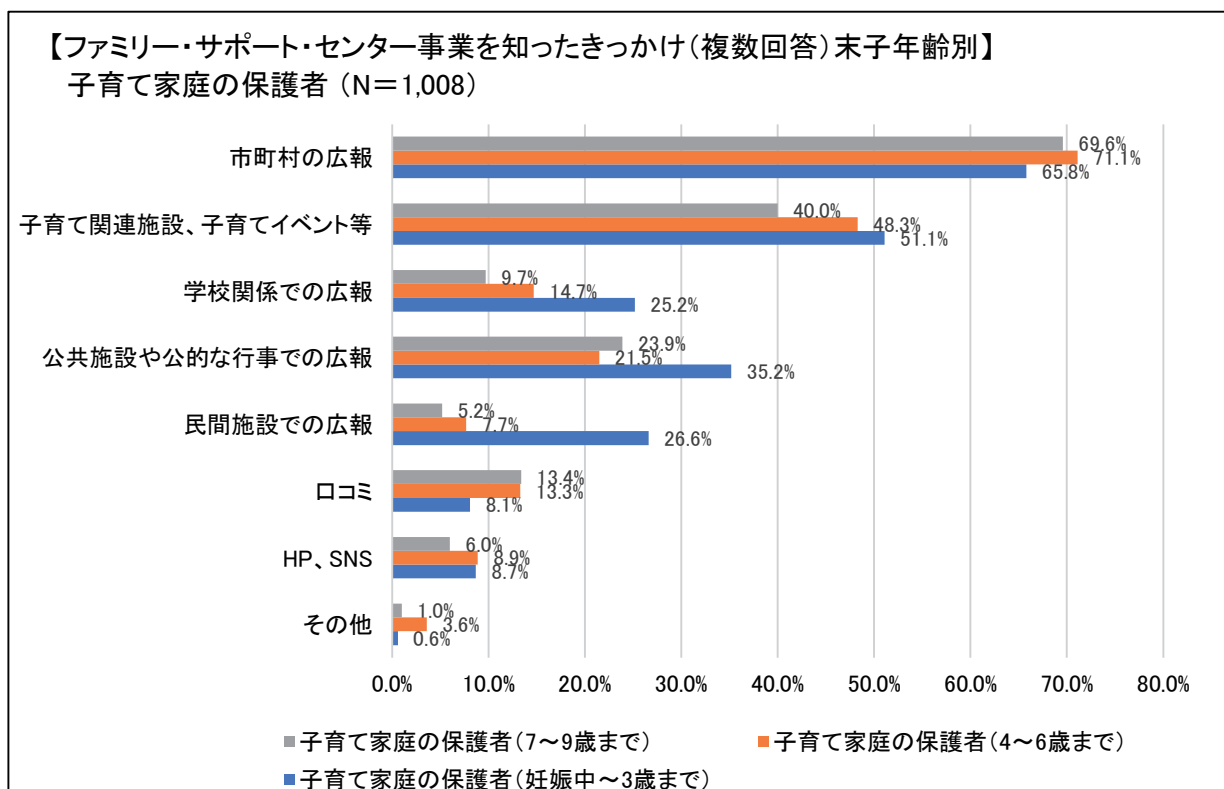
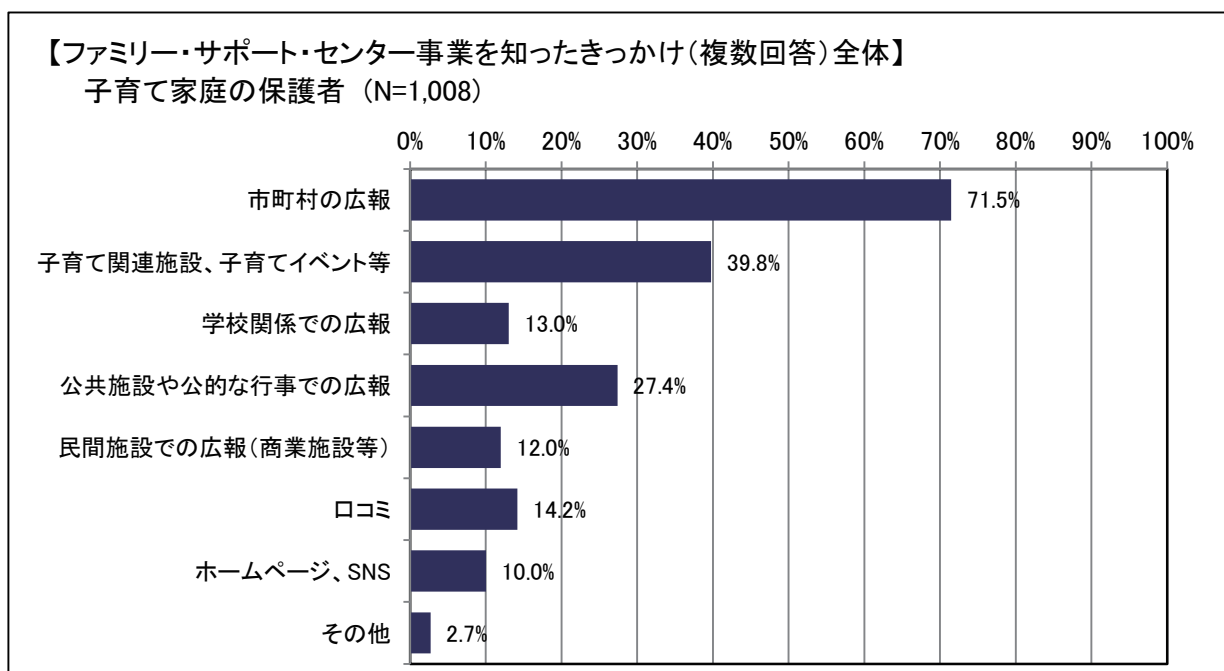
	全体	知っている	聞いたことはある程度で内容については知らない	認知度	知らない
100万円未満	31	15	7	22	9
	100.0%	48.6%	22.0%	70.6%	29.4%
100万円～200万円未満	53	14	10	24	29
	100.0%	25.8%	18.9%	44.7%	55.3%
200万円～300万円未満	102	19	17	36	66
	100.0%	18.8%	16.8%	35.6%	64.4%
300万円～400万円未満	168	37	30	67	100
	100.0%	22.2%	17.8%	40.0%	60.0%
400万円～500万円未満	312	96	41	137	175
	100.0%	30.7%	13.2%	43.9%	56.1%
500万円～600万円未満	336	91	50	141	196
	100.0%	26.9%	14.8%	41.7%	58.3%
600万円～700万円未満	326	110	46	156	171
	100.0%	33.7%	14.0%	47.7%	52.3%
700万円～800万円未満	201	72	41	113	88
	100.0%	35.7%	20.6%	56.3%	43.7%
800万円～900万円未満	159	52	32	84	75
	100.0%	32.7%	20.3%	53.0%	47.0%
900万円～1,000万円未満	205	67	20	87	118
	100.0%	32.6%	9.9%	42.5%	57.5%
1,000万円以上	256	83	55	138	118
	100.0%	32.5%	21.4%	53.9%	46.1%
わからない	243	59	60	119	125
	100.0%	24.1%	24.6%	48.7%	51.3%

図表 3-II-1-2. ファミリー・サポート・センター事業の認知度(依頼会員・世帯年収別)

2. ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ（依頼会員）

ファミリー・サポート・センター事業の認知者が同事業を認知した経路では、「市町村の広報」が全体で71.5%、各階層で7割前後と最も高くなっている。次に、「子育て関連施設・子育てイベント等」が全体で39.8%、各階層で4割から5割であった。3番目は、「公的機関や公的行事などでの広報活動」が全体で27.4%、各階層で2割から3割であった。

なお、「妊娠中～3歳まで」層では、「民間施設（商業施設等）」（26.6%）や「学校関係」（25.2%）で知ったとの回答が高かったのが特徴的である。



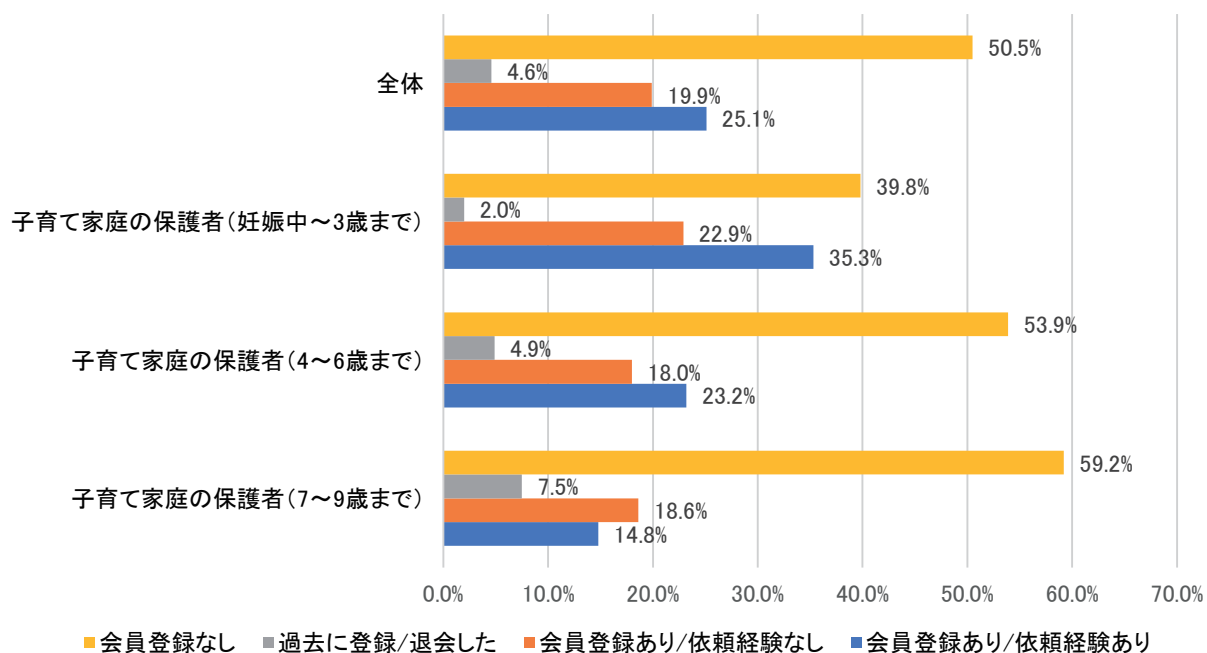
	全体	市町村 の広報	子育て関 連施設、 子育てイ ベント等	学校関 係での 広報	公共施設 や公的な 行事での 広報	民間施設 での広報 (商業施 設等)	ロコ ミ	HP、 SNS	その 他
全体	1,008	720	401	131	276	121	143	101	27
	100.0%	71.5%	39.8%	13.0%	27.4%	12.0%	14.2%	10.0%	2.7%
子育て家 庭の保護 者 (妊娠中 ～3歳ま で)	249	164	127	63	88	66	20	22	1
	100.0%	65.8%	51.1%	25.2%	35.2%	26.6%	8.1%	8.7%	0.6%
子育て家 庭の保護 者 (4～6歳 まで)	265	188	128	39	57	20	35	24	9
	100.0%	71.1%	48.3%	14.7%	21.5%	7.7%	13.3%	8.9%	3.6%
子育て家 庭の保護 者 (7～9歳 まで)	200	139	80	19	48	10	27	12	2
	100.0%	69.6%	40.0%	9.7%	23.9%	5.2%	13.4%	6.0%	1.0%

図表 3-II-2. ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ(複数回答)(依頼会員・末子年齢別)

3. ファミリー・サポート・センター事業への登録状況(依頼会員)

ファミリー・サポート・センター事業を「知っている」者のうち、依頼会員への登録経験者は全体で49.5%(経験計)と半数程度にのぼるが、「退会者」(4.6%)をのぞく「現在登録者」は45.0%であった。さらに「登録のみで依頼経験なし」(19.9%)をのぞく「アクティブな登録者」は25.1%となる。「アクティブな登録者」は、「妊娠中～3歳まで」層で35.3%と他2層より10ポイント強高くなっている(登録経験計も60.1%と高い)。

【登録状況 末子年齢別】
子育て家庭の保護者（N=2,391）



	全体	会員登録あり /依頼経験あり	会員登録あり /依頼経験なし	過去に登録 /退会した	会員登録 経験計	会員登録 なし
全体	713	179	142	33		360
	100.0%	25.1%	19.9%	4.6%	49.5%	50.5%
子育て家庭の 保護者(妊娠中 ～3歳まで)	249	88	57	5		99
	100.0%	35.3%	22.9%	2.0%	60.2%	39.8%
子育て家庭の 保護者 (4～6歳まで)	265	61	48	13		143
	100.0%	23.2%	18.0%	4.9%	46.1%	53.9%
子育て家庭の 保護者 (7～9歳まで)	200	30	37	15		118
	100.0%	14.8%	18.6%	7.5%	40.8%	59.2%

図表3-Ⅱ-3. ファミリー・サポート・センター事業への登録状況（依頼会員・末子年齢別）

4. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由（依頼会員）

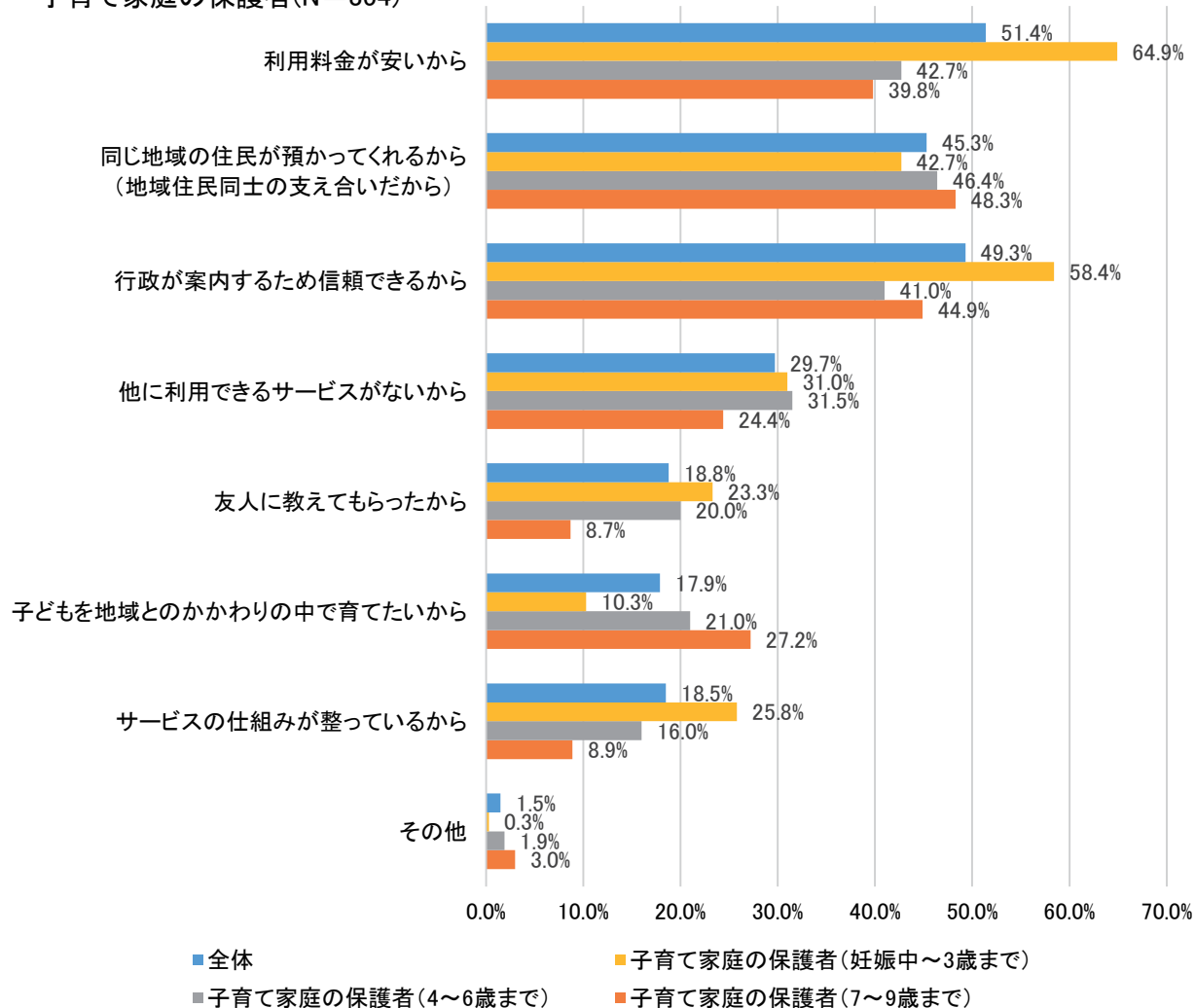
会員登録の理由では、全体で「利用料金が安いから」（51.4%）が最も高く、次に「行政の案内で信頼できるから」（49.3%）、「同じ地域の住民が預かってくれるから」（45.3%）の順であった。これを層別にみると、「利用料金の安さ」は子年齢が上がるにつれ順位を下げ、逆に4歳以上の2層では「同じ地域の住民が預かってくれるから」が半数程度と1位である。

	登録理由1位	登録理由2位	登録理由3位
全体	利用料金が安いから 51.4%	行政の案内で信頼できるから 49.3%	同じ地域の住民が預かってくれるから 45.3%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	利用料金が安いから 64.9%	行政の案内で信頼できるから 58.4%	同じ地域の住民が預かってくれるから 42.7%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	同じ地域の住民が預かってくれるから 46.4%	利用料金が安いから 42.7%	行政の案内で信頼できるから 41.0%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	同じ地域の住民が預かってくれるから 48.3%	行政の案内で信頼できるから 44.9%	利用料金が安いから 39.8%

図表 3-II-4-1. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由（複数回答）（依頼会員・末子年齢別・上位3位）

【ファミリー・サポート・センター事業への登録理由(複数回答)末子年齢別】

子育て家庭の保護者(N=354)



	全体	利用料金が 安いから	同じ地域の住民が預 かってくれるから (地域住民同士の支 え合いだから)	行政が案内す るため信頼で きるから	他に利用で きるサービ スがない から
全体	354	182	160	174	105
	100.0%	51.4%	45.3%	49.3%	29.7%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	150	97	64	88	46
	100.0%	64.9%	42.7%	58.4%	31.0%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	122	52	57	50	38
	100.0%	42.7%	46.4%	41.0%	31.5%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	82	32	39	37	20
	100.0%	39.8%	48.3%	44.9%	24.4%

	友人に教えてもらったから	子どもを地域との関わりの中で育てたいから	サービスの仕組みが整っているから	その他
全体	66	63	65	5
	18.8%	17.9%	18.5%	1.5%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	35	15	39	1
	23.3%	10.3%	25.8%	0.3%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	24	26	19	2
	20.0%	21.0%	16.0%	1.9%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	7	22	7	2
	8.7%	27.2%	8.9%	3.0%

図表 3-II-4-2. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由(複数回答)(依頼会員・末子年齢別)

5. ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由

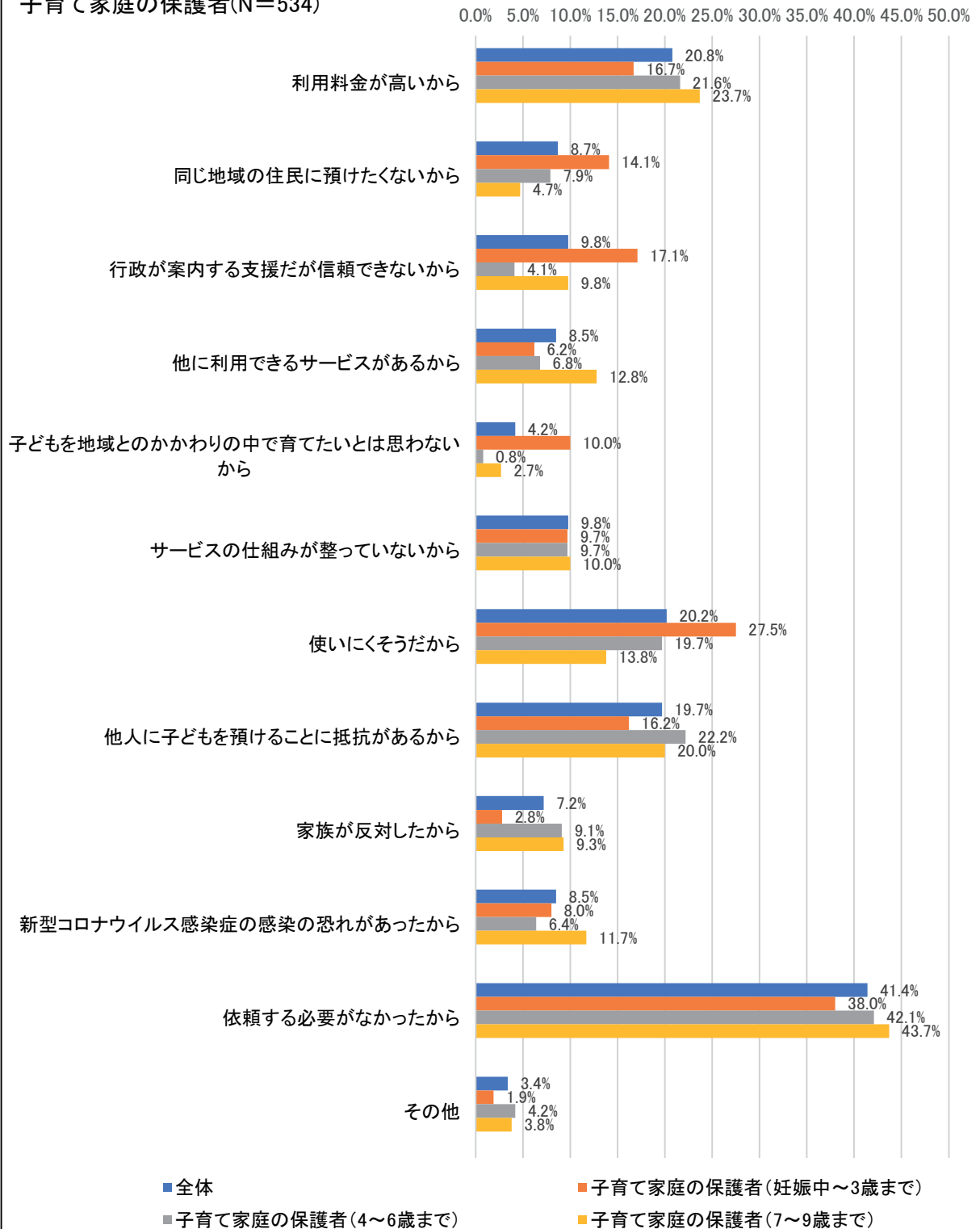
会員登録をしない理由では、全体および各層で「依頼する必要がなかったから」が最も多かった。全体では、「利用料金が安いから」(20.8%)、「使いにくそうだから」(20.2%)、「他人に預けることに抵抗があるから」(19.7%)の順であった。各層別にみると、「妊娠中～3歳まで」の層では、「使いにくさ」と「料金の高さ」が、また、4歳以上の2層では「他人に預ける不安」や「料金の高さ」が上位に挙げられている。

	全体	利用料金が安いから	同じ地域の住民に預けたくないから	行政が案内する支援だがないから	他に利用できるサービスがあるから	子どもを地域との関わりの中で育てたいとは思わないから
全体	534	111	47	52	45	22
	100.0%	20.8%	8.7%	9.8%	8.5%	4.2%
子育て家庭の保護者(妊娠中～3歳まで)	161	27	23	27	10	16
	100.0%	16.7%	14.1%	17.1%	6.2%	10.0%
子育て家庭の保護者(4～6歳まで)	203	44	16	8	14	2
	100.0%	21.6%	7.9%	4.1%	6.8%	0.8%
子育て家庭の保護者(7～9歳まで)	170	40	8	17	22	5
	100.0%	23.7%	4.7%	9.8%	12.8%	2.7%

【ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由(複数回答)

末子年齢別

子育て家庭の保護者(N=534)



	サービスの 仕組みが 整っていないから	使いに くそう だから	他人に子ど もを預ける ことに抵抗 があるから	家族が 反対し たから	新型コロナウ イルス感染症 の感染の恐れ があったから	依頼する 必要が なかった から	その 他
全体	52	108	105	39	46	221	18
	9.8%	20.2%	19.7%	7.2%	8.5%	41.4%	3.4%
子育て家庭 の保護者 (妊娠中～3 歳まで)	16	44	26	4	13	61	3
	9.7%	27.5%	16.2%	2.8%	8.0%	38.0%	1.9%
子育て家庭 の保護者 (4～6歳ま で)	20	40	45	19	13	86	9
	9.7%	19.7%	22.2%	9.1%	6.4%	42.1%	4.2%
子育て家庭 の保護者 (7～9歳ま で)	17	24	34	16	20	75	6
	10.0%	13.8%	20.0%	9.3%	11.7%	43.7%	3.8%

図表 3-II-5. ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由(複数回答)(依頼会員・末子年齢別)

6. 子どもを預かってほしいと思った経験及び子どもを預ける場合の重視点について

子どもを預かってほしいと思った経験では、「ある」が全体で 63.8%であった。子どもを預かってもらう際の重視点は、「預かってくれる人が信頼できる」(48.3%)が最も多く、「利用料金が安いこと」(18.9%)、「(預かってほしい時に)いつでもすぐに預けられる」(9.8%)の順で、全体でも層別でも順位は変わらなかった。

また、「子どもの預け先」については、全体、層別ともに「祖父母に預かってもらう」が最も多く、次に「預かり先がみつからなかった(自分で子どもをみた)」結果となったが、3位以降は各階層で差異が見られた。

【子どもを預かってほしいと思った経験】

(N=2,391)

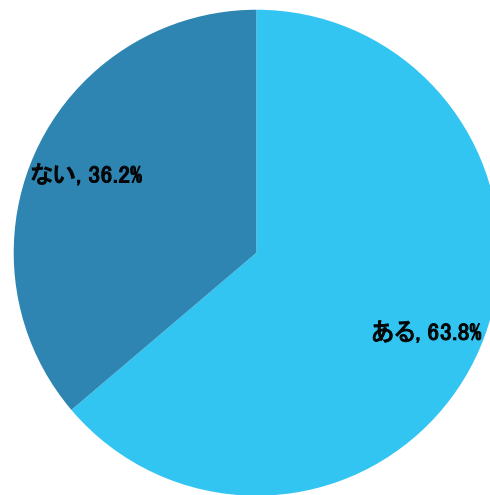


図 3-II-6-1. 子どもを預かってほしいと思った経験

【子どもを預ける場合の重視点について】

(N=1,526)

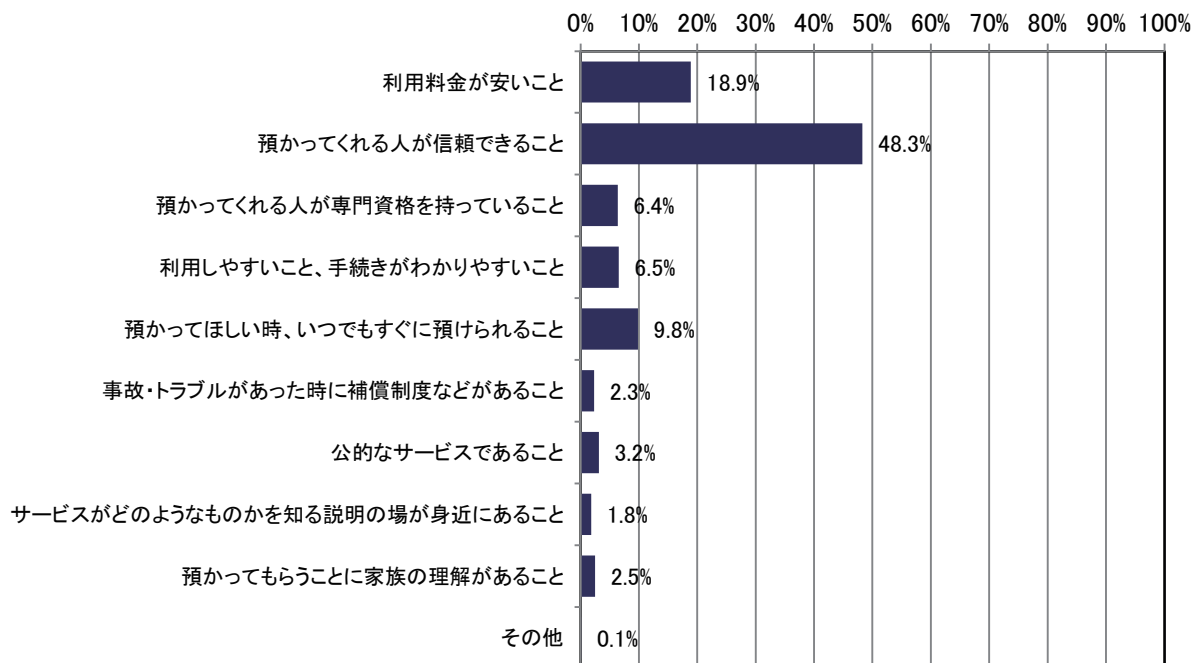
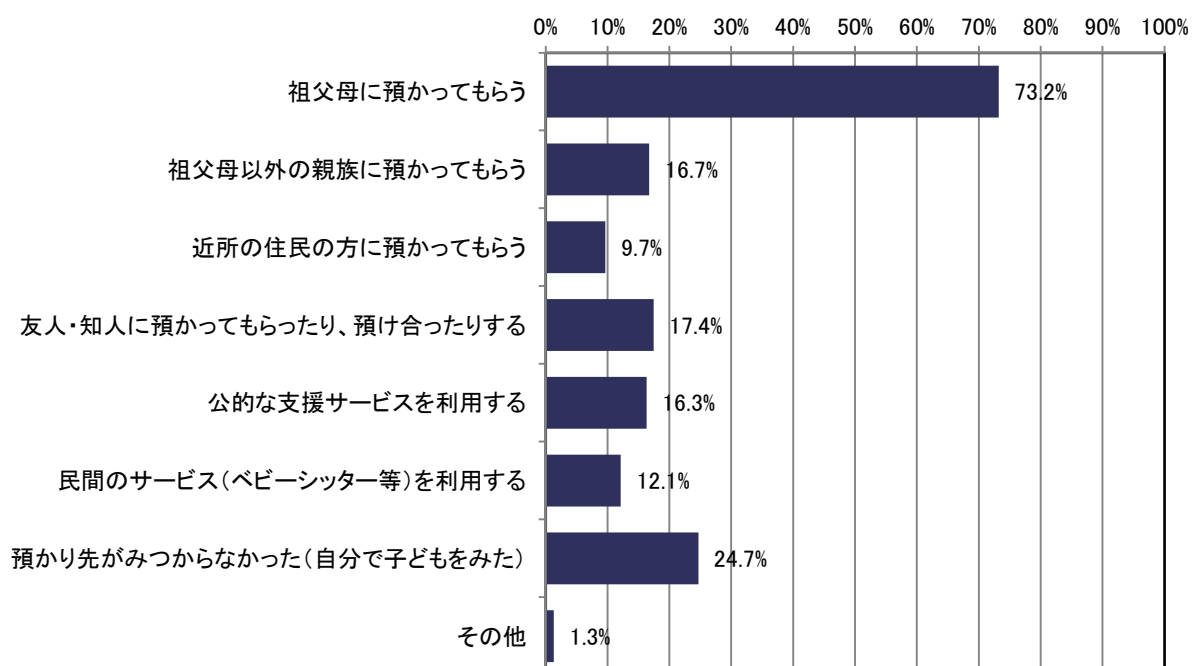


図 3-II-6-2 子どもを預ける場合の重視点

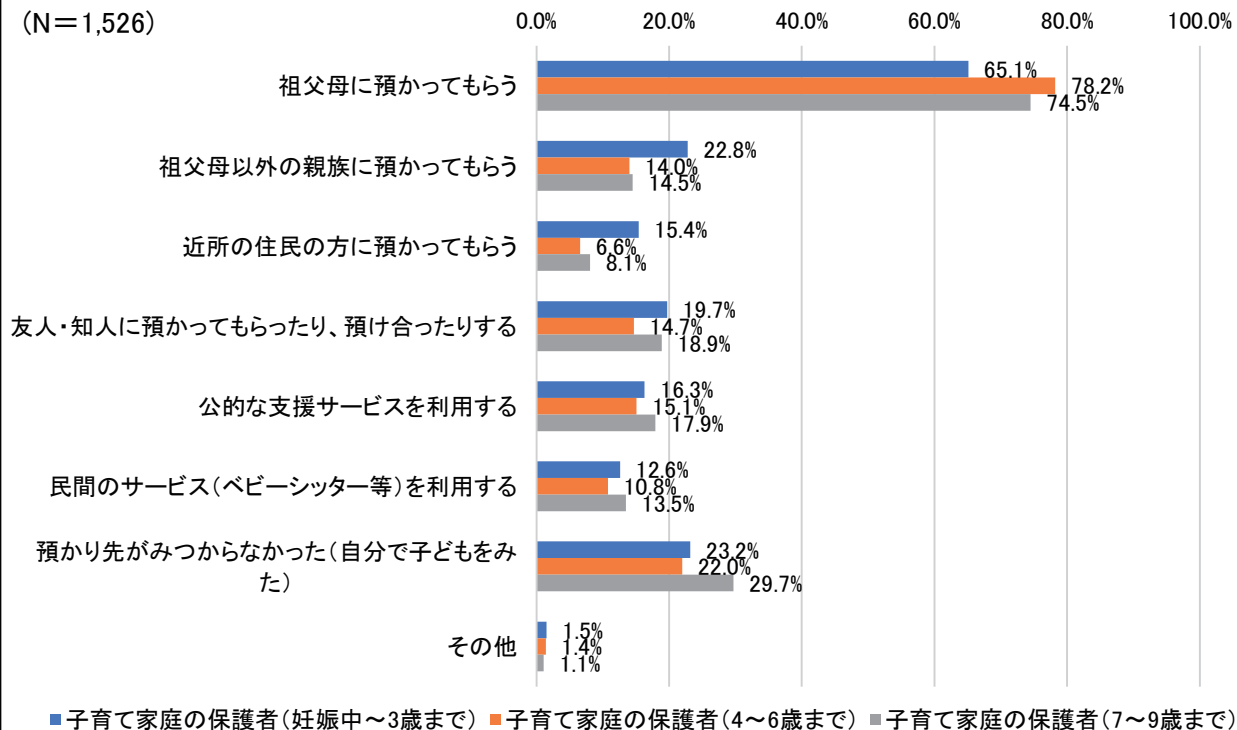
【子どもの預け先(複数回答) 全体】

(N=1,526)



【子どもの預け先(複数回答) 末子年齢別】

(N=1,526)



【預け先】	全体	祖父母に預かってもらう	祖父母以外の親族に預かってもらう	近所の住民の方に預かってもらう	友人・知人に預かってもらったり、預け合ったりする
全体	1,526	1,117	255	148	266
	100.0%	73.2%	16.7%	9.7%	17.4%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	451	293	103	70	89
	100.0%	65.1%	22.8%	15.4%	19.7%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	611	478	85	40	90
	100.0%	78.2%	14.0%	6.6%	14.7%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	464	345	67	38	87
	100.0%	74.5%	14.5%	8.1%	18.9%

【預け先】	公的な支援サービスを利用する	民間のサービス(ベビーシッター等)を利用する	預かり先がみつからなかった(自分で子どもをみた)	その他
全体	249	185	377	20
	16.3%	12.1%	24.7%	1.3%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	73	57	104	7
	16.3%	12.6%	23.2%	1.5%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	92	66	135	8
	15.1%	10.8%	22.0%	1.4%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	83	62	138	5
	17.9%	13.5%	29.7%	1.1%

図表 3-II-6-3 子どもの預け先(複数回答)(依頼会員・末子年齢別)

7. ファミリー・サポート・センター事業の印象（依頼会員）

ファミリー・サポート・センター事業に対する印象では、全体で「信頼できる」（22.8%）や「料金が安い」（20.2%）、「専門性が高い」（13.9%）といったポジティブな印象が上位に挙げられているが、一方で、「利用しにくい」（32.3%）という運用面でのネガティブな印象も同様に挙げられた。

	全体	利用料金		信頼性	
		利用料金が安い	利用料金が高い	信頼できる	信頼できない
全体	2,391	483	450	545	365
	100.0%	20.2%	18.8%	22.8%	15.3%
子育て家庭の保護者（妊娠中～3歳まで）	725	170	134	185	142
	100.0%	23.4%	18.5%	25.5%	19.6%
子育て家庭の保護者（4～6歳まで）	896	160	180	192	125
	100.0%	17.8%	20.1%	21.5%	14.0%
子育て家庭の保護者（7～9歳まで）	769	153	135	168	98
	100.0%	19.9%	17.6%	21.9%	12.8%

	専門性		利用しやすさ		その他
	専門性が高い	専門性が低い	利用しやすい	利用しにくい	
全体	332	238	379	772	27
	13.9%	10.0%	15.9%	32.3%	1.1%
子育て家庭の保護者（妊娠中～3歳まで）	126	67	98	185	3
	17.4%	9.2%	13.5%	25.5%	0.4%
子育て家庭の保護者（4～6歳まで）	89	102	138	357	15
	9.9%	11.4%	15.4%	39.8%	1.7%
子育て家庭の保護者（7～9歳まで）	117	69	143	230	9
	15.2%	9.0%	18.5%	29.9%	1.2%

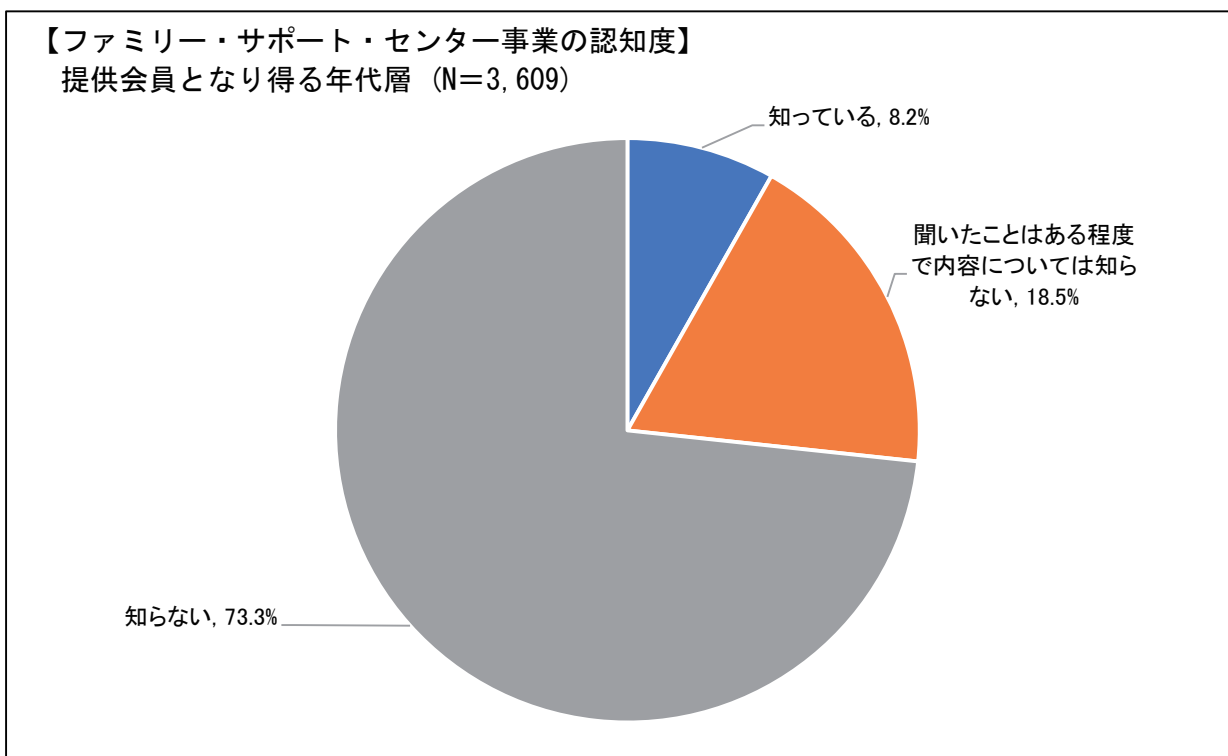
表 3-II-7 ファミリー・サポート・センター事業の印象（複数回答）（依頼会員・末子年齢別）

Ⅲ 提供会員となり得る年代層への調査結果

1. ファミリー・サポート・センター事業の認知度(提供会員)

「提供会員となり得る」層でのファミリー・サポート・センター事業への認知度は全体で26.7%（認知度計）と、依頼会員層の46.9%（認知度計）と、20ポイント低くなっている。「知っている」も8.2%と依頼会員層（29.8%）の3分の1以下にとどまっている。

また、男女別では、女性の認知度33.1%に比べて男性の認知度は20.0%と10ポイント以上低くなっている。年代別の認知度では、30代以下と比較すると40代以上の方が高いがいずれも概ね3割を下回る認知度であった。なお、世帯収入が高いほど認知度が高くなる傾向も見られた。



【ファミリー・サポート・センター事業の認知度】	全体	知っている	聞いたことはある程度で内容については知らない	認知度	知らない
提供会員となり得る年代層（提供会員世代10代～70代）	3,609	295	667	962	2,647
	100.0%	8.2%	18.5%	26.7%	73.3%

図表 3-Ⅲ-1-1 ファミリー・サポート・センター事業の認知度（提供会員）

【ファミリー・サポート・センター事業の認知度】 詳細	知っている	聞いたことはある程度で内容については知らない	認知度	知らない
男性	110	245	355	1,419
	6.2%	13.8%	20.0%	80.0%
女性	185	422	607	1,229
	10.1%	23.0%	33.1%	66.9%
10代・20代	60	58	126	496
	9.7%	9.5%	19.2%	80.8%
30代	8	19	27	84
	6.9%	17.0%	23.9%	76.1%
40代	27	48	75	182
	10.4%	18.8%	29.2%	70.8%
50代	76	134	210	577
	9.6%	17.0%	26.6%	73.4%
60代	54	184	238	644
	6.2%	20.8%	27.0%	73.0%
70代	70	224	294	664
	7.3%	23.4%	30.7%	69.3%

表 3-Ⅲ-1-2 ファミリー・サポート・センター事業の認知度（提供会員・男女別・年代別）

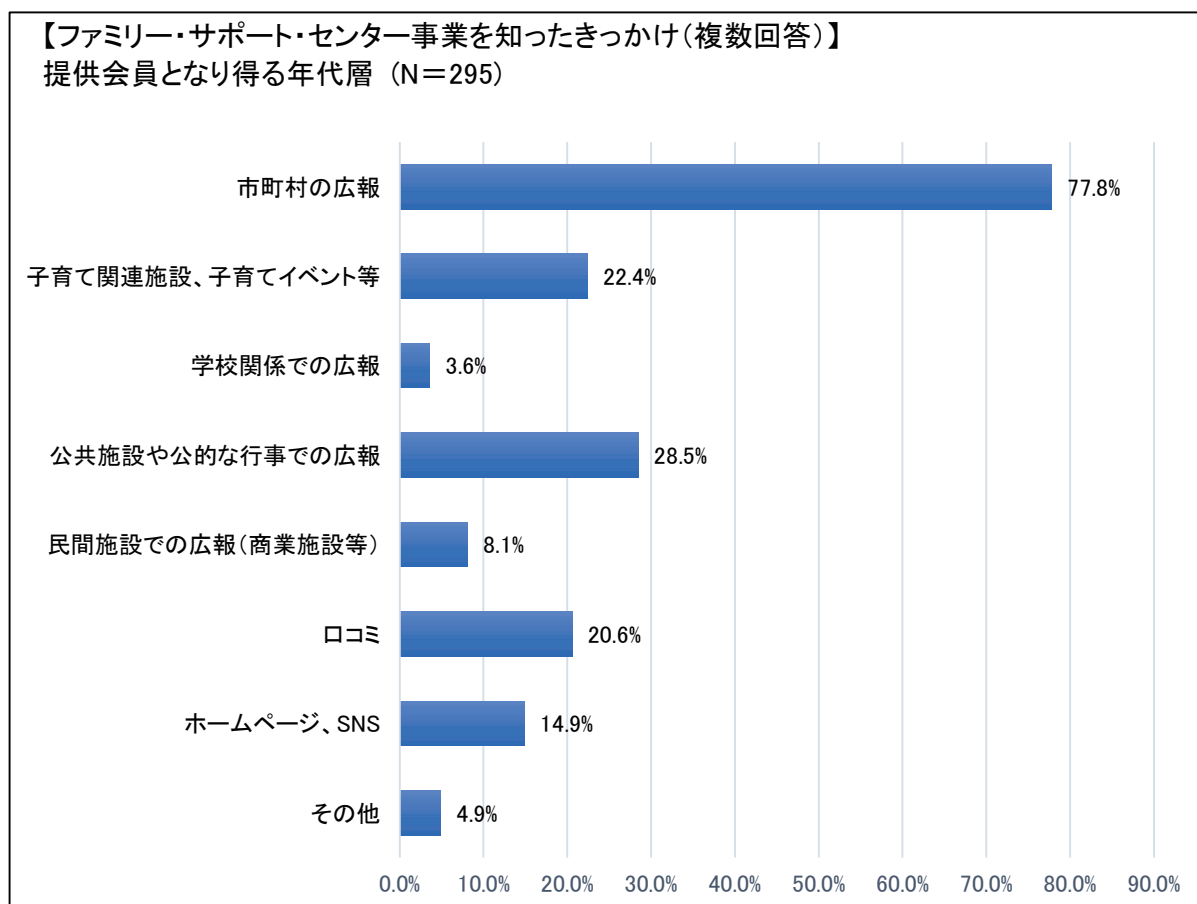
	全体	知っている	聞いたことはある程度で内容については知らない	認知度	知らない
全体 提供会員となり得る年代層（提供会員世代10代～70代）	3,609	295	667	967	2,647
	100.0%	8.2%	18.5%	26.7%	73.3%
100万円未満	227	2	41	43	184
	100.0%	0.9%	18.2%	19.1%	80.9%
100万円～200万円未満	308	15	52	67	241
	100.0%	4.9%	17.0%	21.9%	78.1%
200万円～300万円未満	358	20	60	80	278
	100.0	5.5%	16.8%	22.3%	77.7%
300万円～400万円未満	392	19	71	90	302
	100.0%	4.9%	18.1%	23.0%	77.1%
400万円～500万円未満	320	26	46	62	248
	100.0%	8.3%	14.4%	22.7%	77.4%
500万円～600万円未満	313	54	70	124	190
	100.0%	17.2%	22.2%	39.4%	60.6%
600万円～700万円未満	177	17	34	51	126
	100.0%	9.4%	19.4%	28.8%	71.3%
700万円～800万円未満	203	30	48	78	125
	100.0%	14.9%	23.7%	32.7%	61.4%
800万円～900万円未満	167	17	50	67	99
	100.0%	10.3%	30.2%	40.5%	59.4%
900万円～1,000万円未満	139	16	18	34	105
	100.0%	11.4%	13.2%	24.6%	75.4%
1,000万円以上	344	42	70	112	232
	100.0%	12.3%	20.3%	32.5%	67.5%
わからない	659	36	106	142	517
	100.0%	5.5%	16.0%	21.5%	78.5%

表 3-Ⅲ-1-3 ファミリー・サポート・センター事業の認知度（提供会員・世帯年収別）

2. ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ(提供会員)

ファミリー・サポート・センター事業の認知者が同事業を認知した経路では、全体で「市町村の広報」で知ったものが77.8%と最も高く、次いで、「公共施設や公的な行事での広報」28.5%、「子育て関連施設・子育てイベント等」は22.4%となり、次点以降のきっかけと大きく差が開く結果となった。

なお、男女別及び年代別においても「市町村の広報」が最も高くなっているが、次点以降については若干の差異があった。



【ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ】	全体	市町村の 広報	子育て関連 施設、子育 てイベント 等	学校関係 での広報	公共施設や 公的な行事 での広報
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代 10代~70代)	295	229	66	11	84
	100.0%	77.8%	22.4%	3.6%	28.5%

【ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ】	民間施設での広報 (商業施設等)	口コミ	ホームページ、SNS	その他
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代 10代~70代)	24 8.1%	61 20.6%	44 14.9%	15 4.9%

(詳細)	市町村の広報	子育て関連施設、子育てイベント等	学校関係での広報	公共施設や公的な行事での広報	民間施設での広報(商業施設等)	口コミ	ホームページ、SNS	その他
男性	78	32	7	40	22	34	35	4
	71.1%	29.1%	6.1%	36.6%	20.4%	31.3%	31.9%	3.3%
女性	151	34	4	44	1	26	9	11
	81.8%	18.3%	2.1%	23.7%	0.8%	14.3%	4.8%	5.9%
10代・20代	42	24	0	18	13	31	31	0
	69.7%	39.4%	-	30.3%	21.1%	51.4%	51.4%	-
30代	4	2	1	2	1	3	3	0
	47.1%	29.4%	11.7%	29.4%	11.7%	35.3%	35.3%	-
40代	18	9	3	7	2	4	3	0
	68.2%	32.0%	9.9%	25.9%	7.8%	15.9%	9.9%	-
50代	63	9	3	17	2	5	4	5
	82.5%	12.3%	4.4%	22.8%	2.6%	6.1%	5.2%	6.1%
60代	48	12	3	14	3	7	3	4
	88.5%	21.7%	5.1%	25.6%	6.3%	12.8%	5.1%	7.7%
70代	55	10	1	26	3	11	1	6
	78.4%	14.8%	1.3%	36.4%	4.0%	16.3%	1.3%	8.1%

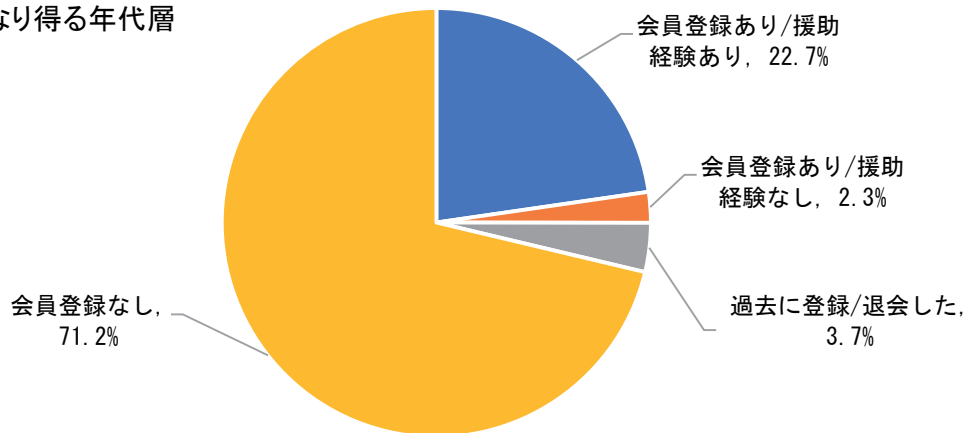
図表 3-III-2 ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ(複数回答)(提供会員・男女別・年代別)

3. ファミリー・サポート・センター事業への登録状況(提供会員)

ファミリー・サポート・センター事業を「知っている」と回答した人のうち、提供会員の登録経験者は全体で28.7%(経験計)である。うち、「登録のみで援助経験なし」(2.3%)と「退会者」(3.7%)を除くアクティブな登録者は22.7%となる。

【ファミリー・サポート・センター事業への登録状況】

提供会員となり得る年代層
(N=295)



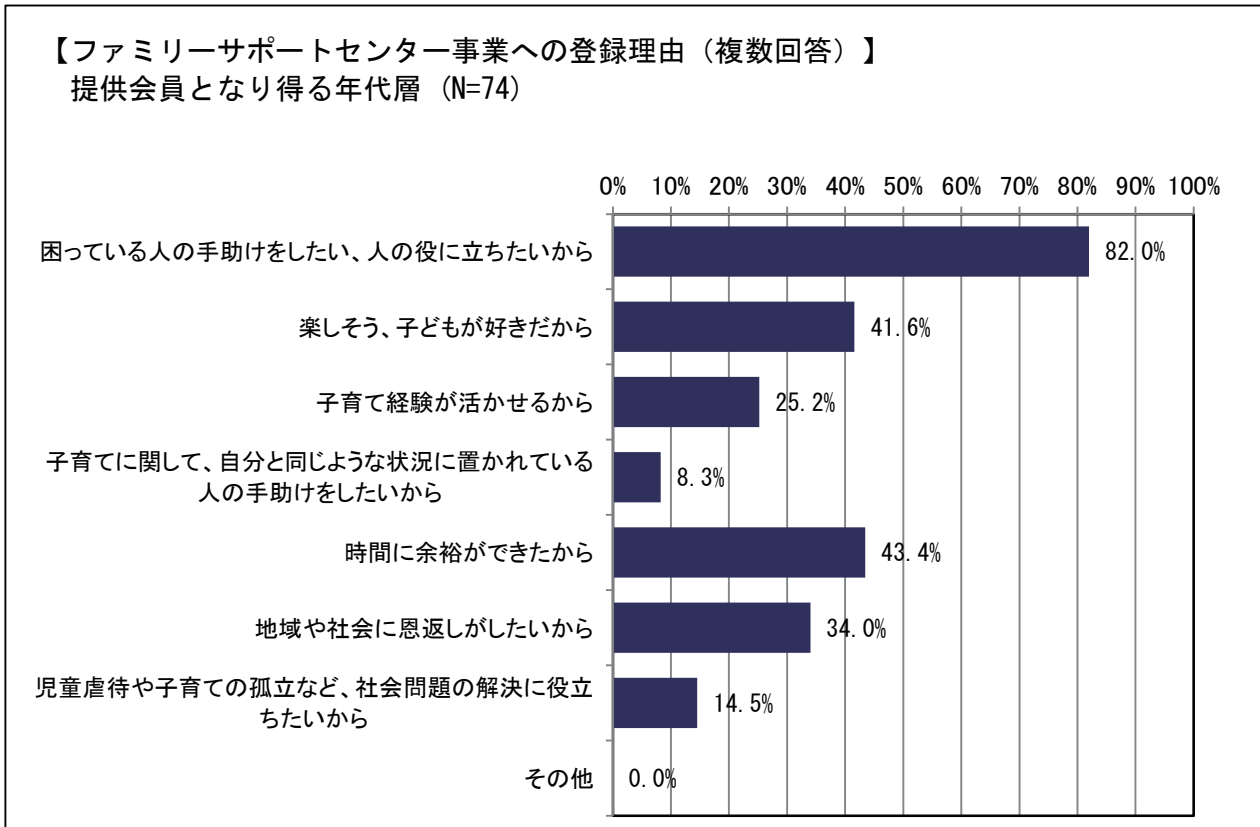
	全体	会員登録あり /援助経験あり	会員登録あり /援助経験なし	過去に登録 /退会した	会員登録 経験計	会員登録 なし
提供会員となり得る年代層(提供会員世代(10代~70代))	295	67	7	11	85	210
	100.0%	22.7%	2.3%	3.7%	28.7%	71.3%

(詳細)	会員登録あり /援助経験あり	会員登録あり /援助経験なし	過去に登録 /退会した	会員登録 経験計	会員登録 なし
男性	39 35.4%	2 2.1%	4 3.5%	45 41.0%	65 59.0%
女性	28 15.3%	4 2.4%	7 3.6%	39 21.3%	146 78.7%
10代・20代	36 60.6%	0 -	0 -	36 60.6%	24 39.4%
30代	3 41.2%	1 11.7%	0 -	5 52.9%	4 47.1%
40代	5 17.7%	3 12.0%	2 7.8%	10 37.5%	17 62.5%
50代	9 11.4%	3 3.5%	4 5.3%	16 20.1%	61 79.9%
60代	8 14.1%	0 -	3 6.4%	11 20.5%	43 79.5%
70代	7 9.5%	0 -	1 1.3%	8 11.8%	62 89.2%

図表 3-III-3 ファミリー・サポート・センター事業への登録状況 (提供会員・男女別・年代別)

4. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由（提供会員）

会員登録の理由では、「困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから」が 82.0%で最も高く、次いで、「時間に余裕ができたから」（43.4%）、「楽しそう、子どもが好きだから」（41.6%）となっている。



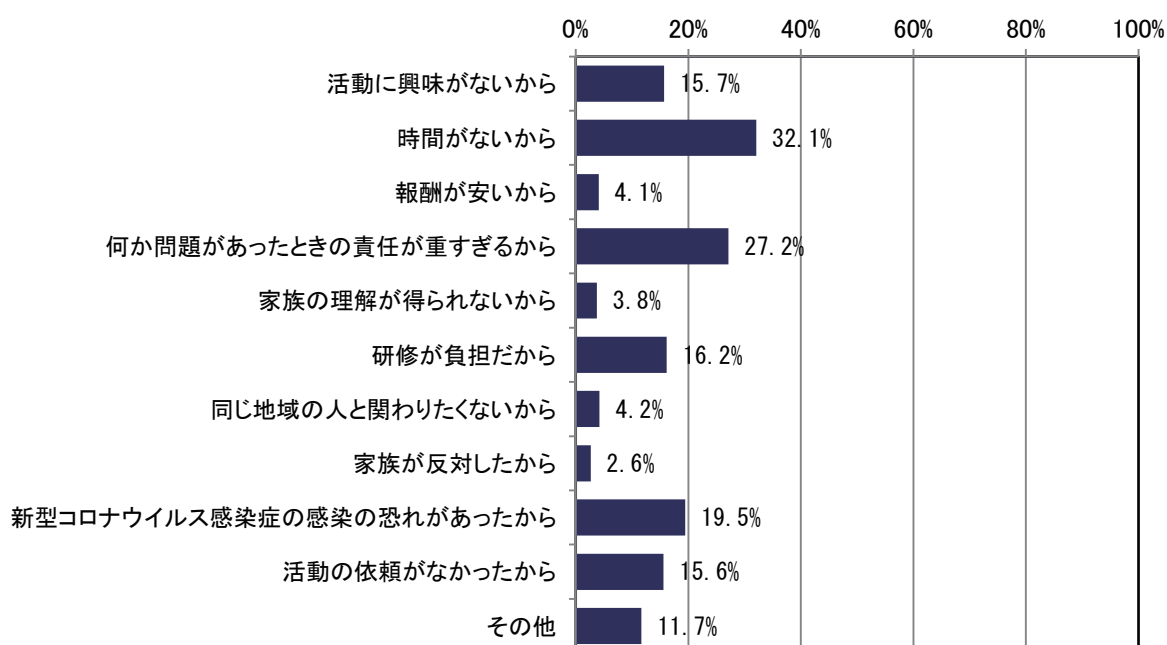
	全体	困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから	楽しそう、子どもが好きだから	子育て経験が活かせるから	子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから	時間に余裕ができたから	地域や社会に恩返しをしたいから	児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから	その他
提供会員となり得る年代層（提供会員世代10代～70代）	74	61	31	19	6	32	25	11	0
	100.0%	82.0%	41.6%	25.2%	8.3%	43.4%	34.0%	14.5%	-

図表 3-III-4. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由（複数回答）（提供会員）

5. ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由（提供会員）

会員登録をしない理由では、「時間がないから」（32.1%）が最も高く、次いで、「（何か問題のあったときの）責任が重すぎるから」（27.2%）、「新型コロナウイルス感染の恐れ」（19.5%）となっており、本人の多忙さと責任の重さがネックとなっている。一方で、本人以外の理由である「家族が反対したから」（2.6%）及び「家族の理解が得られないから」（3.8%）は、登録しない理由の中で低い結果となっていることが分かる。

【ファミリーサポートセンター事業への登録をしない理由（複数回答）】
提供会員となり得る年代層（N=228）



	全体	活動に興味がないから	時間がないから	報酬が安いから	何か問題があったときの責任が重すぎるから	家族の理解が得られないから	研修が負担だから	同じ地域の人と関わりたくないから	家族が反対したから	新型コロナウイルス感染症の感染の恐れがあったから	活動の依頼がなかったから	その他
提供会員	228	36	73	9	62	9	37	10	6	44	36	27
	100.0%	15.7%	32.1%	4.1%	27.2%	3.8%	16.2%	4.2%	2.6%	19.5%	15.6%	11.7%

図表 3-III-5 ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由（複数回答）（提供会員）

6. 子育て支援活動経験について

これまでの子育て支援活動の経験では、全体で「現在も活動中」(2.1%)と「現在活動していない」(3.9%)を合わせた経験率は6.0%と非常に低い結果となった。なお、「活動経験はないが関心あり」(25.0%)という関心層も存在している一方で、「子育て支援活動の経験もなく、関心もない」(69.1%)が最も高い結果になった。

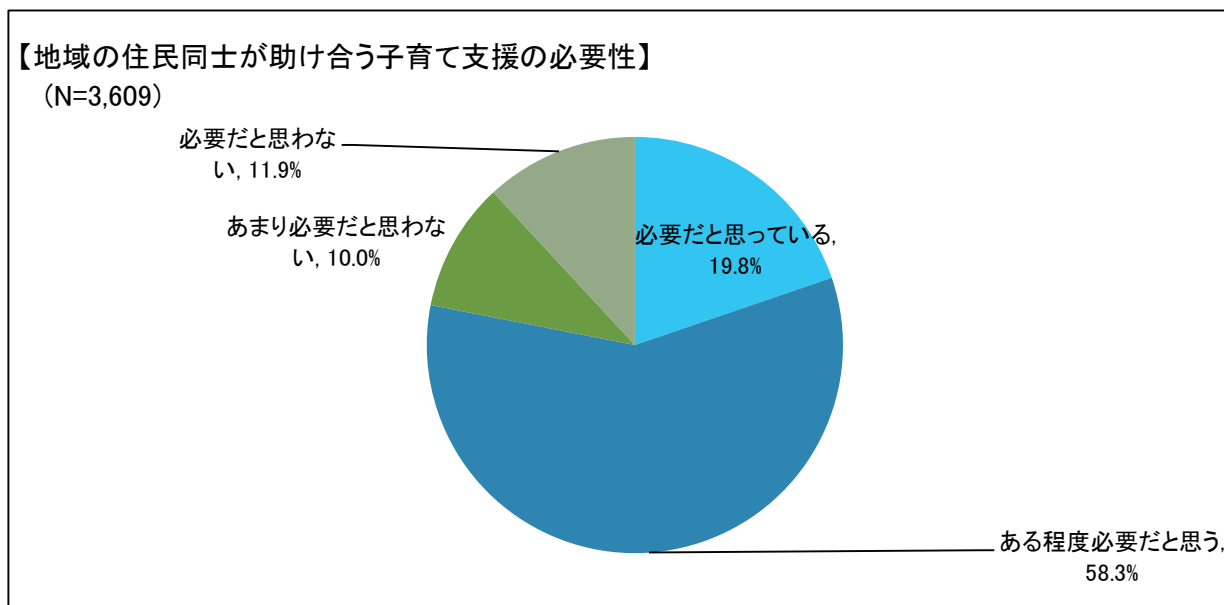
【子育て支援活動経験】	全体	子育て支援活動経験あり/現在活動中	子育て支援活動経験あり/現在活動なし	子育て支援活動経験あり	子育て支援活動経験なし/関心あり	子育て支援活動経験なし/関心なし
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代10代~70代)	3,609	75	140	215	901	2,493
	100.0%	2.1%	3.9%	6.0%	25.0%	69.1%

(詳細)	子育て支援活動経験あり/現在活動中	子育て支援活動経験あり/現在活動なし	子育て支援活動経験あり	子育て支援活動経験なし/関心あり	子育て支援活動経験なし/関心なし
男性	43 2.4%	62 3.5%	105 5.9%	436 24.6%	1,232 69.5%
女性	32 1.8%	78 4.2%	110 6.0%	465 25.3%	1,261 68.7%
10代・20代	31 5.0%	18 3.0%	49 8.0%	109 17.7%	456 74.3%
30代	4 4.0%	0 -	4 4.0%	19 17.4%	86 78.1%
40代	6 2.3%	8 3.1%	14 5.4%	56 21.7%	187 73.0%
50代	12 1.5%	31 3.9%	43 5.4%	171 21.7%	574 72.9%
60代	9 1.0%	28 3.2%	37 4.2%	231 26.1%	614 69.7%
70代	13 1.4%	55 5.7%	68 7.1%	316 32.9%	575 60.0%

表 3-III-6. 子育て支援活動経験について (提供会員・男女別・年代別)

7. 地域の住民同士が助け合う子育て支援の必要性について

「地域住民同士の子育て支援活動の必要性」では、「必要」(19.8%)と「ある程度必要」(58.3%)を合わせて、78.1%が「必要」だと考えている結果となった。



【地域の住民同士が助け合う子育て支援の必要性】	必要だと思っている	ある程度必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要だと思わない
全体	3,609 100.0%	713 19.8%	2,105 58.3%	362 10.0%
男性	352 19.8%	981 55.3%	190 10.7%	251 14.2%
女性	362 19.7%	1,124 61.2%	172 9.4%	178 9.7%
10代・20代	133 21.6%	298 48.5%	42 6.8%	142 23.1%
30代	17 15.8%	58 52.6%	10 9.3%	25 22.3%
40代	44 17.1%	133 51.6%	38 14.6%	43 16.6%
50代	117 14.8%	489 62.2%	91 11.6%	90 11.4%
60代	178 20.2%	524 59.4%	107 12.1%	72 8.2%
70代	224 23.4%	603 62.9%	75 7.8%	58 6.0%

図表 3-III-7 地域の住民同士が助け合う子育て支援の必要性について (提供会員・男女別・年代別)

8. ファミリー・サポート・センター事業の印象(提供会員)

提供会員となり得る年代層の同事業に対する印象では、「信頼できる」(25.5%)、「専門性が高い」(19.8%)とある程度の評価されているものの、「手続きがわかりにくい」(33.3%)ことや「報酬が安い」(18.9%)点などネガティブな印象も強い。また、依頼会員(子育て家庭の保護者層)と比べても、信頼性や専門性の印象はやや高いものの、「利用しにくさ」(提供会員となり得る層にとっての「手続きのわかりにくさ」)が同様に高くなっている。

	全体	利用料金		信頼性	
		報酬が高い	報酬が安い	信頼できる	信頼できない
提供会員となり得る年代層	3,609	153	683	920	275
(提供会員世代10代~70代)	100.0%	4.2%	18.9%	25.5%	7.6%

	専門性		手続きのわかりやすさ		その他
	専門性が高い	専門性が低い	手続きがわかりやすい	手続きがわかりにくい	
提供会員となり得る年代層	715	425	492	1,202	210
(提供会員世代10代~70代)	19.8%	11.8%	13.6%	33.3%	5.8%

表 3-III-8-2 ファミリー・サポート・センター事業の印象(複数回答)(提供会員)

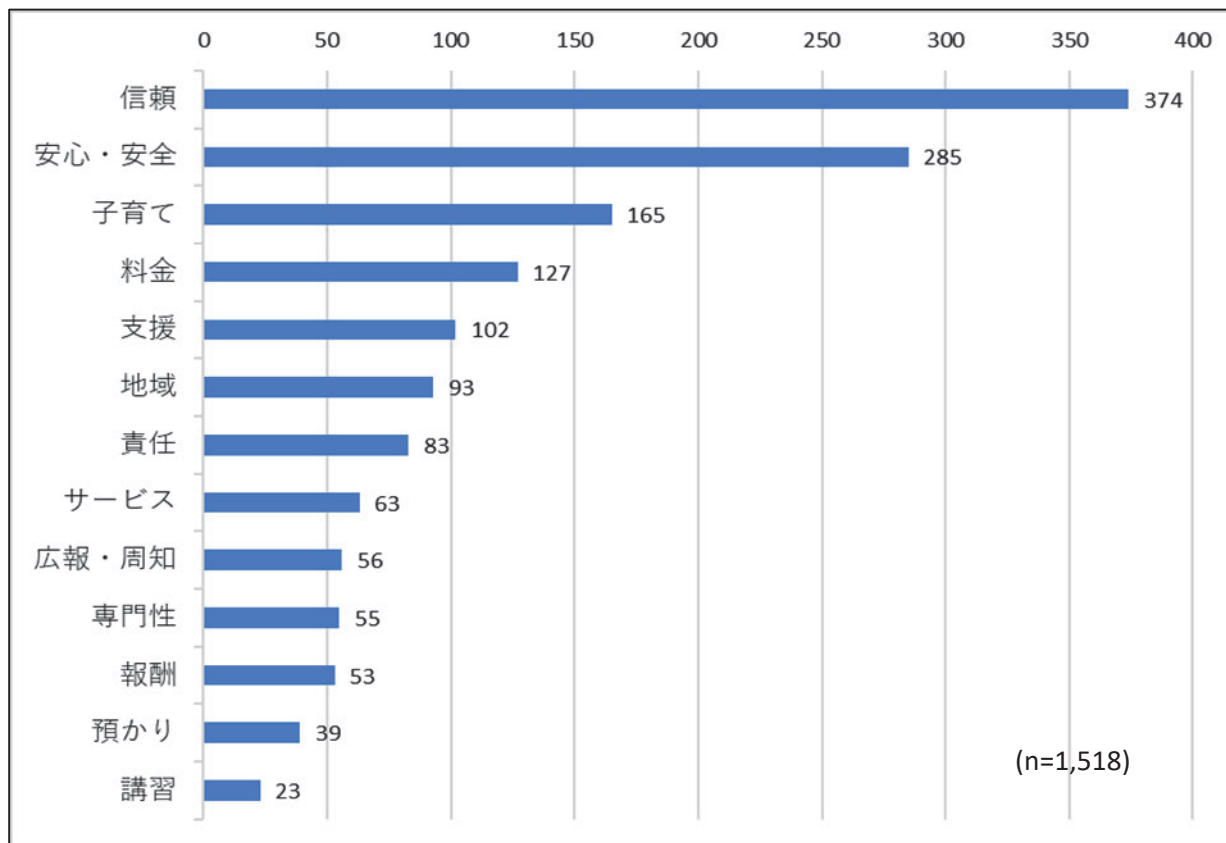
(詳細)	利用料金		信頼性		専門性		手続きのわかりやすさ		その他
	報酬が高い	報酬が安い	信頼できる	信頼できない	専門性が高い	専門性が低い	手続きがわかりやすい	手続きがわかりにくい	
男性	93	318	455	144	409	169	255	631	96
	5.2%	17.9%	25.6%	8.1%	23.0%	9.5%	14.4%	35.6%	5.4%
女性	60	365	466	131	306	256	236	571	114
	3.3%	19.9%	25.4%	7.2%	16.7%	14.0%	12.9%	31.1%	6.2%
10代・20代	54	118	189	51	171	16	123	184	11
	8.9%	19.2%	30.7%	8.3%	27.8%	2.7%	20.1%	29.9%	1.8%
30代	5	18	23	8	21	17	19	43	3
	4.5%	16.2%	20.7%	6.9%	18.6%	15.4%	17.0%	39.3%	2.4%
40代	16	49	50	26	43	34	27	95	10
	6.2%	19.2%	19.5%	10.1%	16.7%	13.2%	10.5%	37.0%	3.7%
50代	26	152	160	74	131	111	73	273	42
	3.4%	19.4%	20.4%	9.4%	16.7%	14.1%	9.3%	34.7%	5.3%
60代	21	169	213	69	157	116	112	303	60
	2.4%	19.2%	24.1%	7.8%	17.8%	13.1%	12.7%	34.4%	6.8%
70代	30	176	286	48	192	130	137	304	85
	3.1%	18.3%	29.8%	5.0%	20.1%	13.6%	14.3%	31.7%	8.9%

表 3-Ⅲ-8-2 ファミリー・サポート・センター事業の印象(複数回答) (提供会員・男女別・年代別)

IV インターネット調査自由記述まとめ

全回答者に対し、ファミリー・サポート・センター事業に求めることや期待することについて聞いたところ以下の回答が寄せられた。

1 内容別集計



2 記載内容（抜粋）

○ 信頼 : 374

- ・ 預けたい時に信頼できる人に預けられる
- ・ 信頼できそうな内容なので機会があれば利用したい
- ・ 預けるほうと預けられる方との信頼関係が一番大切でお互いを尊重することが基本だと思います。一般的な私立の保育所との違いや位置づけを良く相互に理解しあうことが大事だと思います。
- ・ 安心、信頼して預けられるよう、面談や研修等で細やかなフォローをお願いしたいです。
- ・ 積極的な情報の開示・共有による信頼感の醸成。
- ・ 近所の人とはいえ、まったく素性のわからない人に子供を預ける事に不安を覚える。相手が本当に信頼できる人物かどうかかわからないので、その辺りを解消する方法があれば良いと思う。
- ・ 会員登録が容易でかつ信頼できる会員であること。 犯罪歴のある人は登録できないこと。
- ・ 本当に信頼のある方なのか、どのような基準で選ばれているのか心配
- ・ 信頼できる提供会員だと良いが、なかなか信頼出来ないので預けたいと思わない。 事前に提供会員の 人となりを知るためにもお試し制度があると良い。
- ・ 大切な子供を預けるわけだから、とにかく信頼できる人材育成に取り組んで欲しい。
- ・ 知らない個人宅に預けることに抵抗があつて。 逆にうちにシッターをお願いすることも抵抗あります。お金の有無じゃなく、信頼関係を築いた人をお願いしたいと思うので、その保護者同士で密なお付き合いを今までしてこなかったからそこも抵抗あります。個人間はトラブルがこわいので利用は嫌です。
- ・ どこまで信頼できるかわからない

○ 安全 : 285

- ・ 子供の安全を守ることが組織として徹底できているかが問題だと思う。
- ・ 子供の安全性の確保と万一の場合の補償
- ・ 子供に対する安全性が一番。その上で料金が使いやすい設定であること。
- ・ 子供の安全が1番なので信頼できる人である事が1番の希望です。誘拐や、虐待、安全対策の不備など色々なニュースがあるので預けるなら安心安全でお願いしたいです。
- ・ 子供の安全性が守られるかどうか。個人情報を守られるかどうか。
- ・ 安心安全な状況が客観的に分かるようにしてほしい
- ・ 預かる側の方の審査基準を設けて、安全、安心して預けられるようにしてほしいです
- ・ 子供の預かり、送迎等提供会員の安全管理が適切にできるか否かの判断を事業主体側として適切に行うことができるか。
- ・ 安全性。利用料金が高くなってもいいので、預け先の調査や研修、管理などをしっかりしてほしい。
- ・ より安全に子育てをサポートしてほしいです。サービスの質を高めてほしいと思います。

○ 子育て : 165

- ・ シングル家庭や、家庭の事情で子育てを手伝う者がいない場合など、単発でのサポートをしてくれる。民生委員や見守り隊のメンバーなどと連携してくれるとなお有り難いのでは……
- ・ 社会で子育てをしていく仕組みとして評価できる
- ・ 子育て世代に定着するようにPRを続けて欲しいです。私はこのような制度があることを知りませんでした。制度はとても良いものだと思います。
- ・ 無知は怖いので、どこかで知れる機会を作らなければならないと思いました。せっかくこのようなサービスがあるのに知らないで子育てが終わってしまう方が大半かと思う
- ・ 自分が子育てをしている時にこういう制度とかシステムが欲しかったですね。監視まではできなくても資格とかある程度信頼できる人達にしっかりした報酬を払ってやるべきだと思います。
- ・ 自分の子供は自分が子育てをすべき

○ 料金 : 127

- ・ 料金が安いので預けやすいと思った。
- ・ 料金無料で国策であるべきだ
- ・ 利用料金が高いので利用しやすいとは思えません。
- ・ 料金が低ければ利用しやすい。子供の送迎等は、時間制でなく回数制にしてほしい。
- ・ 家庭の所得、子供の人数による料金設定が必要かと
- ・ 料金が高くて良いから、すぐに預けれる体制をとってほしい。
- ・ 料金などは民間に比べて安いと感じました。ただ、依頼するときに予約するにも時間がかかり、すぐに利用とはならないので、そこがクリアできれば良いと感じます。
- ・ 1時間700円くらいなら近所の託児所のほうがよっぽど安いですよ。ファミリーサポートというくらいなら思い切って1時間100円格安でやってみたらいかがですか？

○ 支援 : 102

- ・ 公的な支援を拡充して、よりしっかりした制度になって欲しい
- ・ とにかくシングルマザー家庭の支援を徹底して欲しい。自分の周りにも大変生活に苦しんでいるシングルマザー家庭がいっぱいいる。支援をもっと拡充してほしい。
- ・ 妊娠、出産したされた方全ての方にこのような支援がある事を伝えて、登録を全員し、今よりもっともっと利用に対してハードルを下げ、孤立してしまわないようにしてあげたいと思う
- ・ 個人の権利意識の変化やSNSによる無責任な情報の乱用により昔とは違ったサービスの形態になる。この時代の子育て支援の内容を精査してほしい。
- ・ もっと40~50代の体を動かせる提供会員を増やして欲しい。支援のサポートがゆるい。支援のとき、自宅も会員宅も無理なときに使える場所・部屋を、公民館などに一室作って欲しい。

○ 地域 : 93

- ・ 地域で子育て支援することは、とても良いと思います。
- ・ 地域ごとに差がありすぎるかも。
- ・ 良い制度だと思います。地域に根付く制度に発展すればよい。
- ・ 地域で子どもを育てるという意識づけ。個人情報に関する度を過ぎた制限や子供が挨拶も返さないほどの警戒心の植え付けがなくなればよいと思う。
- ・ 地域や社会で子育てを支援することは良いことです。依頼と提供をいかにスムーズに取り持てるかが問題だと思います。信頼できる提供者を地域の中で準備することは田舎では可能かもしれませんが、都会では困難ではないでしょうか。
- ・ 地域社会で子育てを分担して子供たちが健やかに育ってほしい。子供を預けても安心だと思える相手とマッチングできればいいし、トラブルになった時の対処に関しても情報が開示できればよいと思う。

○ 責任 : 83

- ・ 預かった子供に何かあった場合の責任は、サポートセンターが全面的に被ってくれるのでしょうか？その保証がないと現実には難しいと思います。
- ・ どの程度の配慮をして預かればよいのか？また不慮の事故などが起こった際の対応はどのような責任を負わなければならないのか、現代の社会事情では双方に不安があるでしょう。
- ・ 法的な責任の所在が気になるし会員間で決める有償では特に何かにつけて責任が発生するのではとおもうと積極的に関わる気が失せてしまう。
- ・ 時間に余裕があり子どもが好きなので協力してみたいと思うが、万が一の事故などのときに責任が負いきれるのか不安。心に傷が残ってしまうような事態が起きるかもしれないと少し怖い気がする。
- ・ 今の世の中とてもありがたい事業ですが、責任を伴う仕事ですのでとても心配はあります。
- ・ 子供を預けた相手の変質者で、何か犯罪に巻き込まれてしまった場合に、誰が責任を取るのか、どういった賠償を受けられるのかが明確になっていないと、怖くて預けることはできない。
- ・ 問題があったときに提供会員の責任があまり問われないような仕組みにすべき。
- ・ 問題が生じそうな事業は行政が責任を持って行うべきである
- ・ 子供に事故が起きないような体制や、万が一事故が起きた場合の責任所在, 等を明確に定める必要があると思います。

○ サービス : 63

- ・ 報酬は安い、無料だと頼みにくいとおもうので良いと思う。これから必要なサービスだと思う。
- ・ 質の良い提供会員によってサービスの質や信頼性の向上が図られることや知名度が増していくこと。
- ・ サービスを受ける際の、地域的な有利・不利の解消。
- ・ 誰でも必要な時に安心して利用できるサービスになればよいと思います。
- ・ 当日急にや熱が出た時でも預かってくれるサービス
- ・ サービスシステムの構築と必要とされる場所への認知向上。余分な出費の削減。
- ・ コストパフォーマンスが高いサービスを期待しています
- ・ 申し込み手続きなどが簡単でサービスを利用し易いことを期待しています。また、急にサービスを利用したい時に対応可能であることを期待しています。
- ・ 登録制で自治体が提供するサービスなので安心

○ 周知・広報 : 56

- ・ 周知活動をして、このような制度があることをたくさんの方が知る必要がある
- ・ 一般の人にもしっかり周知してほしい

- ・利用者側が自ら調べないと存在がわからないような地味な活動ではなく、子どもの有無に関わらず全員がその存在を知るべく周知認知すべき。
- ・制度を知らない人が多いと思うので周知が必要と思われる
- ・きちんとサポートしてくれているのか分かりにくいから、やっている内容を周知して欲しい

○ 専門性 : 55

- ・専門性は無いが手が空いている人が 簡単に子育て世代を支えられる仕組みは素晴らしい。料金が安いのも魅力。
- ・専門性なくても、我々親自身が信頼でき、子供達を温かく見守ってもらえればそれで良いです。学童の先生や学校の先生等からの虐待やイジメも実在するいまは、人選を厳しくして頂きたいと思います！
- ・専門性があり信頼できそう
- ・専門性を持った人の援助を不可欠としてほしい。
- ・専門性が不透明で信用にかけます。預けるのが怖い。今まで幼稚園や保育園にしか預けたことがないので、信頼できません。
- ・障害児も見れる専門的な人がいること。
- ・専門性と安全性の担保を求めたい

○ 報酬 : 53

- ・報酬が安いと思う
- ・報酬が少ない。最低賃金は保証しないと
- ・責任ある仕事のわりに報酬が低い。公共団体の補助を強化する必要がある。
- ・命を守る活動なので、それに見合った報酬が欲しいです。
- ・行政の補助を行い、報酬を最低賃金並みに引き上げるべきだと考える。
- ・報酬が高ければ提供会員になってみたい
- ・子供を預かる側にとっても、子供の屈託のない笑顔を見ていると ストレスなどなくなり、また自身の健康につながったりと おまけに報酬までもらえるんだったら、プラスの作用でしかないと思います。

○ 預かり : 39

- ・母子家庭や共働き家族のために子供を預かり安心できる場所で子供を預かっておく場所があることは大事だと感じる。また生活保護受給者の家庭も保護者の働く環境作りにも貢献するだろう。
- ・困ったときは助け合うのはいいが、自宅では預かりたくない。
- ・子供の保育施設終了後の預かりは助かりますね
- ・個人宅ではなく、児童館で預かりサービスをしてくれること

○ 講習 : 23

- ・結構な制度だと思う。提供会員にどのような教育を行っているかも広報すると、不安の解消につながると思う。講習受講後に評価を行って、内部資格を付与してはどうか。
- ・提供会員は講習を24時間受講後活動開始との事だが、依頼会員の立場からするともう少し受講してもらってからの方がより安心して預けられると思う。
- ・提供会員の方がどのような講習を受けてどのような考えを持っている方なのかかわかると安心する。
- ・講習を受けてから活動開始とありますが、もう少し長い期間必要かと思いました。預けるのには信頼性がないと心配です。
- ・講習だけでは預けられるか不安。短時間でも知らない人に子供を預けるのは不安。 資格の確立や、預かってくれる方の面談などが出来たらいいと思う。